



HIKVISION

DS-6700HQHI-SATA シリーズエンコーダー

ユーザマニュアル

Made in China

UD.710202D2171A01

ユーザマニュアル

COPYRIGHT ©2015 Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd.

無断複写転載等を禁ず。

文章、画像、図表を含むすべての情報は、Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd. またはその子会社（以下、「Hikvision」とする）の所有するものとします。本ユーザマニュアル（以下、「本マニュアル」とする）は、Hikvision の事前の書面による許可なく、部分的または全体的にかかわらず再生産、変更、翻訳または配布できないものとします。特に規定されていない限り、Hikvision は明示的にせよ黙示的にせよ本マニュアルに関して一切の補償、保証または表明を行わないものとします。

本マニュアルについて

このマニュアルは DS-6700HQHI-SATA シリーズエンコーダー用です。

本マニュアルには製品の使用および管理についての指示が含まれています。ここに記載されている写真、表、画像およびその他すべての情報は説明のみを目的としています。本マニュアルに含まれる情報は、ファームウェア更新やその他の理由で通知なく変更されるものとします。当社ウェブサイトで最新版を参照してください (<http://overseas.hikvision.com/en/>)。

専門の技術者の指導の下で本ユーザマニュアルをご利用ください。

商標に関する確認

HIKVISION およびその他 Hikvision の商標およびロゴは、様々な裁判管轄地域においても Hikvision の所有物です。以下に示されたその他の商標およびロゴは、各権利保有者の所有物です。

法的免責事項

適用法により許容される範囲内で、記載の製品とそのハードウェア、ソフトウェアおよびファームウェアは、あらゆる誤謬やエラーを含め、そのままの形で提供されるものとし、HIKVISION では明示、黙示を問わず一切の保証（商品性、十分な品質、特定の目的の適合性および第三者の権利非侵害を含むがそれだけに限定されない）を行いません。HIKVISION およびその取締役、役員、従業員または代理人は、本製品の利用に関連する事業利益の損失や事業妨害、データや文書の損失に関する損害を含む特別、必然、偶発または間接的な損害に対して、たとえ HIKVISION がそれらについて通知を受けていたとしても、一切の責任を負いません。

インターネットアクセスを伴う製品に関して、当該製品の一切の使用はお客様自身の責任によるものとします。HIKVISION は、異常操作、プライバシー漏えいまたはサイバー攻撃、ハッキング、ウィルス検査やその他のセキュリティリスクから生じるその他の損害に対して一切の責任を負わないものとします。ただし、必要に応じて HIKVISION は適宜技術サポートを提供します。

監視に関する法律は裁判管轄地域によって異なります。本製品のご使用前に、使用地の裁判管轄地域におけるすべての関連法を確認して、必ず適用法に準拠するように利用してください。本製品が不正な目的で使用された場合に、HIKVISION は責任を負わないものとします。

本マニュアルと適用法における矛盾がある場合については、後者が優先されます。

規制情報

FCC 情報

FCC 準拠:本装置は連邦通信委員会 (FCC) 規則第 15 条の基準に基づくクラス A デジタル機器です。これらの制限は、商業環境で装置を運用する際に、有害な干渉に対して妥当な保護を提供するように設計されています。この装置は電波を発生または使用し、無線周波数エネルギーを放射する可能性があり、取扱説明書に従って取り付けおよび使用しなかった場合、無線通信に有害な干渉を引き起こすことがあります。住宅地域でこの装置を運用する場合、有害な干渉を引き起こす可能性があり、その場合はユーザー側の負担で干渉に対処する必要があります。

FCC 条件

このデバイスは、FCC ルール Part 15 に準拠しています。運用は以下の 2 つの条件に従うものとします。

1. このデバイスが有害な干渉を引き起こす可能性がない。
2. このデバイスは望ましくない操作を引き起こす可能性のある干渉を含んだ、あらゆる干渉受信を受容しなければならない。

EU 適合宣言



本製品および -該当する場合- 付属品は、“CE” のマークが付いており、EMC 指令 2004/108/EC、RoHS 指令 2011/65/EU の下に記載されている該当欧州統一規格に準拠しています。



2012/19/EU (WEEE 指令):この記号が付いている製品は、欧州連合 (EU) の地方自治体の未分別廃棄物として処分できません。適切にリサイクルするために、本製品は同等の新しい装置を購入する際に、お近くの販売業者に返却いただくか、指定された収集場所で処分してください。詳細については次の URL を参照してください。www.recyclethis.info



2006/66/EC (バッテリー指令):本製品には、欧州連合 (EU) の地方自治体の未分別廃棄物として処分できないバッテリーが含まれています。特殊バッテリー情報に関する製品資料をご覧ください。バッテリーにはこの記号が付いており、カドミウム (Cd)、鉛 (Pb)、水銀 (Hg) を示す文字も記載されています。適切にリサイクルするために、販売業者か、指定された収集場所にご返却ください。詳細については次の URL を参照してください。www.recyclethis.info

カナダ産業省 ICES-003 準拠

本装置は CAN ICES-3 (A)/NMB-3(A) 基準要件を満たしています。

安全上の指示

これらの指示は、ユーザが製品を正しく使用し、危険や財産損失を回避できるように保証することを目的としています。

使用上の注意の基準は、「警告」と「注意」に分かれています。

警告:この警告を無視した場合、重傷を負ったり死亡する可能性があります。

注意:この注意を無視した場合、ケガしたり、装置が破損する可能性があります。

	
警告 重傷や死亡を防ぐために、これらの安全対策に従ってください。	注意 ケガや物損の可能性を抑えるために、これらの注意に従ってください。



警告

- すべてのパスワードやその他のセキュリティの適切な設定は、設置者および/またはエンドユーザの責任です。
- 製品の使用にあたって、国や地域の電気の安全性に関する法令に厳密にしたがう必要があります。詳細情報に関しては技術仕様を参照してください。
- 入力電圧は、IEC60950-1 基準に従い、SELV（安全超低電圧）および 100～240 VAC、48 VDC または 12 VDC の有限電源を満たす必要があります。詳細情報に関しては技術仕様を参照してください。
- アダプターの過負荷によりオーバーヒートや火災の危険性があるため、1 つの電源アダプターに複数のデバイスを接続しないでください。
- プラグがしっかりと電源ソケットに接続されていることを確認してください。
- デバイスから煙や臭い、騒音が発生した場合、すぐに電源を切り、電源ケーブルを抜いて、サービスセンターにご連絡ください。

予防および注意に関するヒント

デバイスを接続して操作する前に、以下のヒントをご確認ください。

- ユニットが風通しのよい、ほこりのない環境に設置されていることをご確認ください。
- ユニットは屋内専用に設計されています。
- 液体の近くで本機を使用しないでください。
- 環境条件が工場仕様を満たしていることをご確認ください。
- ユニットがラックや棚に適切に固定されていることをご確認ください。落下によるユニットへの主な衝撃や振動は、内部の繊細な電子機器に損害を与える可能性があります。
- できれば無停電電源装置（UPS）と併用してください。
- ユニットの電源を切ってから、周辺機器の接続や切断を行ってください。
- 工場推奨のHDDを本デバイスに使用してください。
- バッテリーの不適切な使用や交換を行うと、爆発の危険性があります。同一または同等のタイプのものでだけ交換してください。バッテリーのメーカーによって提供された指示にしたがって、使用済みバッテリーを処分してください。

目次

第 1 章	概要	9
1.1	フロントパネル.....	9
1.2	背面パネル.....	9
1.3	アラームの接続.....	10
1.3.1	アラーム入力接続.....	10
1.3.2	アラーム出力接続.....	11
第 2 章	エンコーダー向けネットワーク設定のアクティベーションと初期化	12
2.1	Web ブラウザを経由の管理者パスワード設定.....	12
2.2	クライアントソフトウェア経由の管理者パスワードの設定とネットワークパラメータの変更.....	13
第 3 章	Web ブラウザ経由での DS-6700HQHI-SATA へのアクセス	16
3.1	Web コンポーネントのインストール.....	16
3.2	メインページ.....	18
第 4 章	ライブビュー	19
4.1	ライブビューの開始.....	19
4.1.1	メイン/サブストリームをライブ表示.....	20
4.1.2	全画面モード.....	20
4.2	画像のキャプチャ.....	21
4.3	PTZ 操作の実行.....	21
4.3.3	PTZ 操作の実行.....	22
4.3.4	プリセットの設定/呼び出し.....	22
4.3.5	パトロールの設定/呼び出し.....	24
4.4	ビデオパラメータの設定.....	26
第 5 章	デバイス設定	27
5.1	ローカル設定.....	27
5.2	デバイスパラメータ.....	28
5.2.1	時刻設定.....	28
5.2.2	録画バック時間の設定.....	30
5.3	ネットワーク設定.....	30
5.3.1	TCP/IP の設定.....	30
5.3.2	ポート設定.....	31
5.3.3	DDNS 設定.....	32
5.3.4	PPPoE 設定.....	34
5.3.5	E メール設定.....	35
5.3.6	ネットワークディスクの追加.....	37
5.3.7	SNMP 設定.....	39
5.3.8	UPnP™ 設定.....	40
5.3.9	HTTPS 設定.....	41
5.3.10	EZVIZ クラウド P2P の設定.....	43
5.3.11	マルチキャストアドレスの設定.....	43
5.3.12	遠隔アラームホストの設定.....	44
第 6 章	カメラ設定	45

6.1	OSD 設定	45
6.1.1	ディスプレイ設定.....	45
6.1.2	テキストオーバーレイの設定	46
6.2	ビデオ設定	48
6.3	アラームの設定と処理方法	49
6.3.3	動体検知設定	50
6.3.4	外部アラーム入力の設定.....	55
6.3.5	ビデオ損失アラームの検知.....	56
6.3.6	ビデオ干渉アラームの設定.....	57
6.3.7	異常への対応処理.....	58
6.4	プライバシーマスクの設定	59
第 7 章	録画設定.....	61
7.1	休日設定	61
7.2	スケジュール録画の設定	62
第 8 章	再生	66
第 9 章	ユーザアカウントの管理	68
9.1	ユーザの追加	68
9.2	ユーザの変更	69
9.3	ユーザの削除	70
第 10 章	ログの検索およびメンテナンス	71
10.1	ログ検索.....	71
10.2	デバイス情報を表示	72
10.3	メンテナンス	72
10.3.1	デバイスの再起動.....	73
10.3.2	デフォルト設定の復元.....	73
10.3.3	設定ファイルのインポート/エクスポート.....	74
10.3.4	システムのアップグレード.....	75
第 11 章	仕様	76
第 12 章	FAQ	77

製品の主な機能

一般

- HD-TVI およびアナログカメラに接続可能
- Coaxitron カメラ/ドームに対して長距離伝送接続が可能
- 各チャンネルは 1080 p 解像度までのデュアルストリーム対応
- 解像度、フレームレート、ビットレート、画質などを含む各チャンネルの個別設定。
- ビデオストリームおよびビデオと音声ストリームのエンコード、複合ストリームエンコード中の音声とビデオの同期。
- 透かし技術

監視中

- 動体検知、ビデオタンパー検知、ビデオ異常アラーム、ビデオロスおよび VCA アラーム機能
- プライバシーマスク
- 複数の PTZ プロトコル対応。PTZ プリセット、パトロールおよびパターン

HDD管理

- 最大 2 SATA ハードディスクを接続可能
- 各ディスクは最大 6TB の容量
- S.M.A.R.T.および不良セクタ検知
- HDD スリープ機能
- HDD プロパティ:冗長性、読み取り専用、読み取り/書き込み (R/W)
- HDD グループ管理
- HDD 割り当て管理:容量をチャンネルごとに割り当て可能

録画および再生

- 休日録画スケジュールの設定
- サイクルおよび非サイクル録画モード
- ノーマルおよびイベントビデオのエンコードパラメータ
- 複数の録画タイプ: 連続、アラーム、動体、動体 | アラーム、動体&アラーム、VCA
- 録画タイプで分かれた 8 個の録画時間帯
- 動体検知起動録画の事前録画および事後録画、スケジュールでの事前録画、マニュアル録画
- イベント (アラーム入力/動体検知) での録画ファイルの検索
- 録画ファイルのロックと解除
- 冗長録画
- カメラ番号、録画タイプ、開始時刻、終了時刻などによる録画ファイルの検索と再生
- より効率的でない情報に対応するためのスマート再生(クライアントソフトウェアでのみ対応)
- 逆再生
- 再生時の一時停止、早送り、スロー再生、前後のスキップ、進行状況バー上のマウスドラッグでの位置指定に対応

アラームと異常

- アラーム入力/出力の警戒時間を設定可能
- ビデオロス、動体検知、ビデオタンパー、異常信号、ビデオ入力/録画解像度不一致、不正ログイン、ネットワーク切断、IP 競合、異常録画、HDD エラー、HDD フルなどのアラーム。
- アラームによる音声アラーム、監視センターへの通知、Eメールの送信、アラーム出力の起動
- VCA 検知アラーム(横断検知および侵入検知)をクライアントソフトウェアでサポート
- 同軸アラームに対応

ネットワーク機能

- 自己適応型 10M/100M/1000M ネットワークインターフェイス x1
- IPv6 サポート
- TCP/IP プロトコル、PPPoE、DHCP、DNS、DDNS、NTP、SADP、SMTP、SNMP、NFS、iSCSI、UPnP™および HTTPS に対応
- HiDDNS によるエクストラネットアクセス
- EZVIZ クラウド P2P によるアクセスに対応
- ユニキャスト向け TCP、UDP、RTP
- UPnP™によるオート/マニュアルポートマッピング
- 録画ファイルの遠隔検索、再生、ダウンロード、ロックおよび解除、破損したダウンロードファイル転送の再開
- 遠隔パラメータセットアップ:デバイスパラメータの遠隔インポート/エクスポート
- デバイス状態、システムログおよびアラーム状態の遠隔閲覧
- 遠隔キーボード操作
- 遠隔での HDD フォーマットとプログラムアップグレード
- 遠隔でのシステム再起動およびシャットダウン
- 遠隔ホストへのアラームおよび異常情報の送信可能。
- 遠隔での録画開始/停止
- 遠隔でのアラーム出力の開始/停止
- 遠隔 PTZ 制御
- 遠隔 JPEG キャプチャ
- 双方向音声と音声同時通信
- 埋め込みウェブサーバー

開発の拡張性

- Windows および Linux システム向け SDK
- デモ用アプリケーションソフトウェアのソースコード
- アプリケーションシステムの開発サポートとトレーニング

第1章 概要

1.1 フロントパネル

DS-6708HQHI-SATA/DS-6716HQHI-SATA:

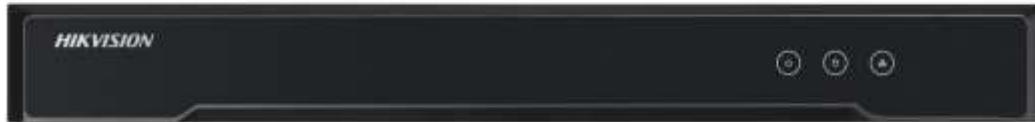


図 1.1 DS-6708HQHI-SATA/DS-6716HQHI-SATA フロントパネル

表 1.1 インジケータの説明

	インジケータ	説明
1	電源	デバイスの電源がオンの時は緑色で点灯します。
2	状態	データが HDD から読み込まれている、または HDD に書き込まれている時には緑色で点灯します。
3	Tx/Rx	1. ネットワークが接続されていない時は点灯しません。 2. データ送信/受信中には緑色に点滅します。 3. 送信/受信のデータが大きい場合、速く点滅します。

1.2 背面パネル

DS-6708HQHI-SATA:



図 1.2 DS-6708HQHI-SATA 背面パネル

DS-6716HQHI-SATA:



図 1.3 DS-6716HQHI-SATA

表 1.2 インターフェイス概要

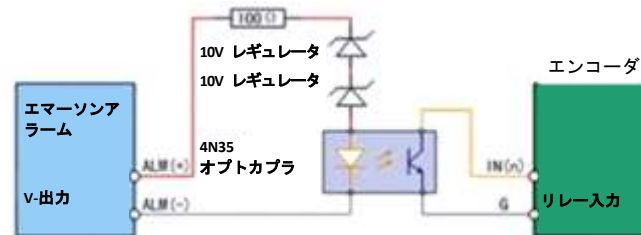
	説明
1	ビデオ入力
2	音声入力、RCA コネクタ
3	音声出力、RCA コネクタ
4	LAN ネットワークインターフェイス
5	RS-485 シリアルインターフェイス
6	12 VDC 電源入力
7	電源スイッチ
8	アラーム入力およびアラーム出力
9	アース

1.3 アラームの接続

1.3.1 アラーム入力接続

DS-6700HQHI-SATA はアラーム入力モードとしてオープン/クローズリレー入力をサポートします。オープン/クローズリレーシグナルモード以外のアラーム入力信号については、以下の示す接続例にしたがってください。

エマーソンアラームのためのアラーム入力接続:



注意:エンコーダのリレー入力ポートは NC モードに設定してください。

図 1.4 エマーソンアラームのためのアラーム入力接続

ノーマルアラームのためのアラーム入力接続:

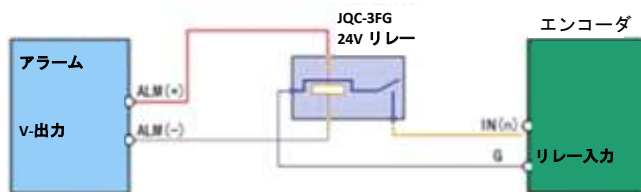


図 1.5 ノーマルアラームのためのアラーム入力接続

1.3.2 アラーム出力接続

DS-6700HQHI-SATA はアラーム出力モードとしてオープン/クローズリレー出力をサポートします。アラーム出力は NO または NC に設定できます。AC 負荷、DC 負荷に応じて異なるアラーム出力接続方式が適用されます。下図を参照してください:

アラーム出力接続図:

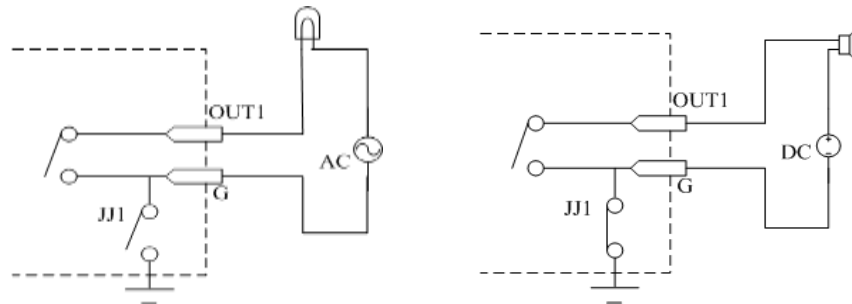


図 1.6 アラーム出力接続

JJ1 の異なる接続が上図に示されていることにご注意ください。

DC負荷については、JJ1はNCおよびNOの両方の方式で安全にご利用いただけます。12V/1A 以下の範囲でのご利用を推奨します。外部AC入力については、JJ1はでオープンでなければなりません。マザーボードには二つのジャンプスイッチがあり、それぞれが1つのアラーム出力に対応しています。2つのジャンプスイッチはどちらも、工場出荷状態では接続状態にセットされています。

第2章 エンコーダー向けネットワーク設定 のアクティベーションと初期化

エンコーダーをアクティベートするには強力なパスワードを設定する必要があります。Web ブラウザ経由のアクティベート、SADP 経由のアクティベート、ならびにクライアントソフトウェア経由のアクティベートのすべてに対応しています。

2.1 Web ブラウザを経由の管理者パスワード設定

手順:

1. エンコーダーの電源を入れ、エンコーダーをネットワークに接続します。
2. Web ブラウザのアドレスバーに IP アドレスを入力し、[Enter] キーを押してアクティベーションインターフェイスに進みます。



ネットワークエンコーダーのデフォルト IP アドレスは 192.0.0.64 です。アクセスした後、デフォルトの IP アドレスを変更するよう推奨します。



図 2.1 アクティベーションインターフェイス

3. 新しくパスワードを作り、パスワードフィールドに入力します。



強力なパスワードの推奨 お使いの製品のセキュリティ向上のため、ご自分で選択した強力なパスワード（最低 8-16 文字を使用し、大文字、小文字、数字および特殊記号を含むもの）を作成するよう強く推奨します。また、定期的にパスワードを再設定すると、特に高いセキュリティが求められるシステムでは、毎月または毎週パスワードを再設定すると、製品をより安全に保護できます。

4. パスワードを確認します。
5. [OK] をクリックしてパスワードを保存し、ライブビューインターフェイスに進みます。

2.2 クライアントソフトウェア経由の管理者パスワードの設定とネットワークパラメータの変更

クライアントソフトウェアは複数のタイプのデバイスに対応した多用途のビデオマネジメントソフトウェアです。

クライアントソフトウェアを付属のディスクまたは公式のウェブサイトから入手し、プロンプトにしたがってソフトウェアをインストールします。ステップにしたがい、カメラをアクティベートします。

手順:

1. クライアントソフトウェアを実行すると、下図のようにソフトウェアのコントロールパネルが表示されます。



図 2.2 コントロールパネル

2. [デバイスマネジメント] をクリックし、下図のようにデバイスマネジメントインターフェイスに進みます。

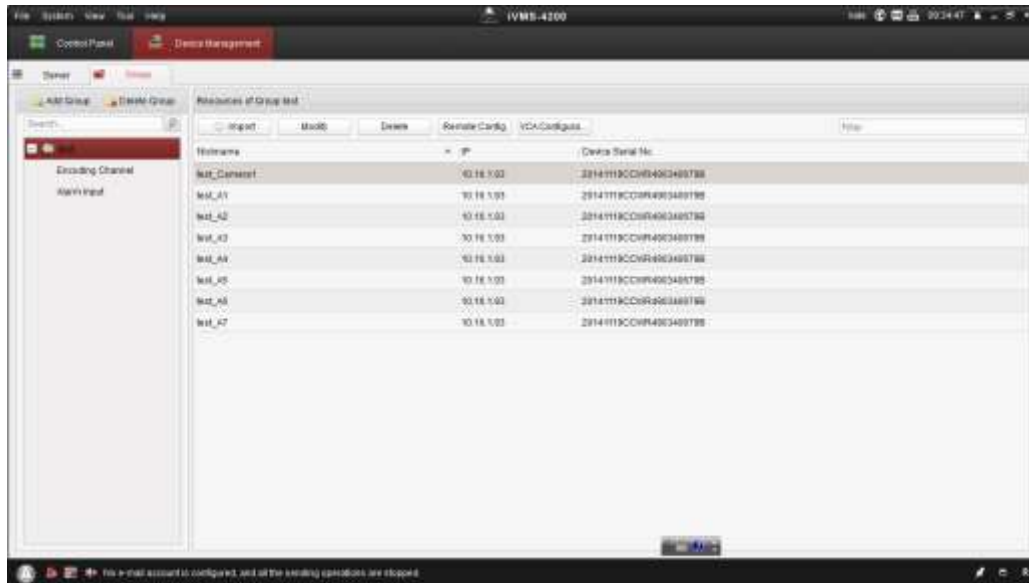


図 2.3 コントロールパネル

3. デバイス リストからデバイス ステータスをチェックし、非アクティブ状態のデバイスを選択します。
4. [アクティベート] ボタンをクリックすると、アクティベーションインターフェイスが表示されます。
5. パスワードフィールドに新たなパスワードを入力して、パスワードを確認します。



強力なパスワードの推奨 お使いの製品のセキュリティ向上のため、ご自分で選択した強力なパスワード（最低 8-16 文字を使用し、大文字、小文字、数字および特殊記号を含むもの）を作成するよう強く推奨します。また、定期的にパスワードを再設定すると、特に高いセキュリティが求められるシステムでは、毎月または毎週パスワードを再設定すると、製品をより安全に保護できます。



図 2.4 アクティベーションインターフェイス (クライアントソフトウェア)

6. [OK] ボタンをクリックし、アクティベーションを開始します。
7. [ネットワーク情報を変更] ボタンをクリックすると、下図のようにネットワークパラメータ変更インターフェイスが表示されます。

Modify Network Parameter

Device Information:

MAC Address: XX-XX-XX-XX-XX-XX Copy

Software Version: Vx.x.xbuild xxxxxx Copy

Device Serial No.: XX-XXXXXXXX-XXXXXXXXXXXXXXXXXX Copy

Network Information:

☐ DHCP

Port: 8000

☒ IPv4(Enable)

IP address: 192.168.1.64

Subnet Mask: 255.255.255.0

Gateway: 192.168.1.64

☐ IPv6(Disable)

Password:

OK Cancel

図 2.5 ネットワークパラメータの変更

8. デバイスの IP アドレスをお使いのコンピューターと同じサブネットにするには、IP アドレスを手動で変更するか、[DHCP を有効化する] のチェックボックスをチェックしてください。
9. パスワードを入力し、IP アドレスの変更を有効化してください。

第3章 Web ブラウザ経由での DS-6700HQHI-SATA へのアクセス

DS-6700HQHI-SATA は Web ブラウザ経由でアクセスし、設定や操作を行うことができます。サポートされている Web ブラウザには以下が含まれます: Internet Explorer 6/7/8/9、Firefox 3.5 以上、Chrome 8 以上、Safari 5.0.2 以上、Windows XP SP1 以上 (32 ビット)。

始める前に:

- アクセスする前に、第 3 章にしたがって、デバイスのネットワーク設定を行う必要があります。
- デバイスを LAN に接続し、デバイスと同じ LAN に接続され PC を準備します。
- デバイスの工場出荷時のデフォルト IP アドレスは 192.0.0.64 です。

3.1 Web コンポーネントのインストール

手順:

1. PC 上で Web ブラウザを開き、DS-6700HQHI-SATA の IP アドレス(例: <http://192.0.0.64>)を入力して [Enter] キーを押します。システムは、ログインインターフェイスを表示します。



HTTPS 機能が有効化されている場合、システムはデフォルトで HTTPS ログインモード(例: <https://192.0.0.64>)を利用します。または、HTTP モードを利用してデバイスにログインしたい場合、<http://IP address/index.asp> (例: <http://192.0.0.64/index.asp>)と入力することもできます。



図 3.1 ログインページ

ユーザ名とパスワードを入力してシステムにログインしてください。



ログインダイアログボックスで管理者ユーザのパスワードを7回、あるいは一般ユーザのパスワードを5回間違えた場合、そのユーザアカウントは30秒間ロックされます。

2. DS-6700HQHI-SATA のメインページからプラグインをダウンロードしてインストールする必要があります。

(1) 画面上のヒントにしたがって、ライブビューパネルをクリックしてください。

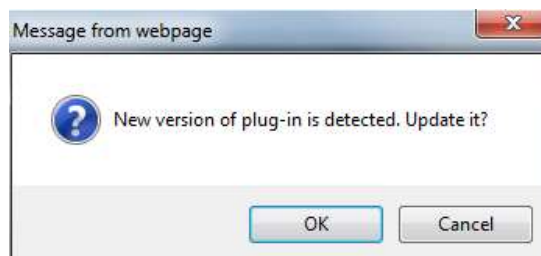


図 3.2 プラグインのダウンロードとインストール

(2) ポップアップする警告メッセージボックスの[実行]または[保存]をクリックしてください。

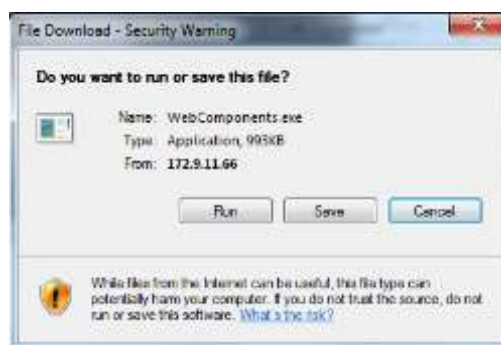


図 3.3 Web コンポーネントの実行

(3) ポップアップする設定ダイアログボックスの[次へ]をクリックしてください。



図 3.4[次へ]をクリックします。

(4) インストールが完了したら、[完了]をクリックして Web コンポーネントのインストールを完了します。

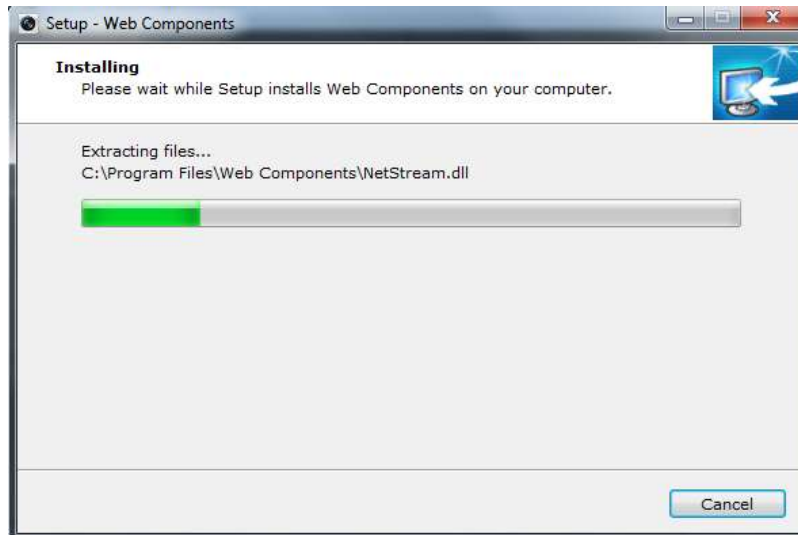


図 3.5 Web コンポーネントのインストール

3.2 メインページ

ログインが成功すると、メインページが自動的に表示されます。



図 3.6 メインページ

ライブビューページの説明:

メニューバー:それぞれ、ライブビュー、再生、ログおよび設定画面に進みます。

デバイスリスト: 接続されているエンコーダーとそのチャンネルを表示します。

ウィンドウ分割:1/4/9/16 分割画面モードです。

ライブビデオウィンドウ:現在のカメラのライブビデオを表示します。

ツールバー:ライブビューページでの機能、例えばライブビュー、キャプチャ、録画、音声オン/オフ、双方向音声などを実行します。

PTZ 操作:カメラの PTZ 操作(PTZ 機能をサポートしている場合)、照明、ワイパーの制御を実行します。

プリセット設定/呼び出し:カメラ(PTZ 機能をサポートするもの)のプリセットの設定および呼び出しを行います。

ビデオパラメータ設定:ライブビデオの明るさ、コントラスト、色相および彩度を設定します。

第4章 ライブビュー

ライブビューで接続されたカメラのリアルタイムで取得したビデオ画像を表示します。ログインが成功すると、ライブビューページが自動的に表示されます。

4.1 ライブビューの開始

手順:

1. ライブビューウィンドウで、マウスをクリックして再生ウィンドウを選択します。
2. デバイスリストからカメラをダブルクリックしてライブビューを開始します。



図 4.1 ライブビューを開始

3. ツールバーの  ボタンをクリックすると、デバイスリストの全カメラのライブビューを開始できます。

ライブビューウィンドウにあるボタンの説明については以下の表を参照してください。

表 4.1 ツールバーの説明

アイコン	説明
	ウィンドウ分割モードを 1/4/9 画面の中から選択します。
	ライブビュー開始/停止
	ライブビューモードで画像キャプチャします。
	手動録画開始/停止
	e-PTZ 有効化

アイコン	説明
	前ページ
	次ページ
	音声 ON/OFF
	双方向音声開始/停止
	全画面ライブビューモード切り替え。



双方向音声または音声込みの録画機能を利用する前に、ビデオ設定節を参照して[ビデオ種別]を[ビデオ & 音声]に設定してください。

4.1.1 メイン/サブストリームをライブ表示

下図に示すように、対応するアイコンをクリックしてライブビューのメインストリーム、またはサブストリームを選択することができます。

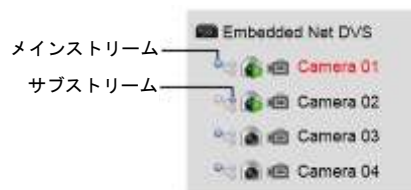


図 4.2 ライブビューのメイン/サブストリーム

メインストリームはより高品質のビデオを利用でき、サブストリームは必要な帯域幅がより小さくなります。

4.1.2 全画面モード

ツールバーの  ボタンをクリックするか、ライブビデオをダブルクリックすると、全画面表示モード

に切り替えることができます。通常モードに戻るには、 をクリックするか、再びライブビデオをダブルクリックします。

さらなる情報については、次のセクション以降を参照してください。

1. 画像のキャプチャについては画像のキャプチャ節。
2. リモート録画の設定については録画設定節。
3. ライブビューの画質の設定についてはローカル設定節。
4. 録画ビデオのファイルとキャプチャ画像の保存先パスの設定についてはローカル設定節。
5. ライブビデオ上の OSD テキストの設定については OSD 設定節。

4.2 画像のキャプチャ

ライブビューモードでツールバー上の  ボタンをクリックすると、ライブ画像のキャプチャができます。

画像がキャプチャされると以下のようなポップアップメッセージボックスが右下の隅に表示されます。

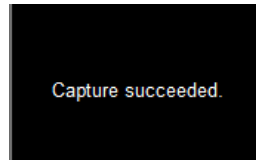


図 4.3 画像キャプチャの成功



- キャプチャ画像を保存するパスは、[設定]>[ローカル設定]ページ上で設定することができます。
- 画像は、お使いのコンピュータ上に JPEG ファイルとして保存されます。

4.3 PTZ 操作の実行

始める前に:

1. エンコーダーがPTZ機能をサポートしているカメラ/ドームに接続されていることを確認してください。パン/チルトユニットまたはスピードドームの R+ と R-端子を DS-6700HQHI-SATA の RS-485 D+および RS-485 D-端子にそれぞれ正しく接続してください。
2. RS-485 設定インターフェイス([リモート設定]>[シリアルポート設定]>[485 シリアルポート])で設定したボーレート、PTZ 操作およびアドレスは、図 6.3 で示す通り、接続されたパン/チルトユニットまたはスピードドームのパラメータと同一でなければなりません。

RS-485 Settings	
Channel No.	Analog Camera1
Baud Rate	9600
Data Bit	8
Stop Bit	1
Parity	None
Flow Ctrl	None
PTZ Protocol	HIKVISION
PTZ Address	0

図 4.4 RS-485 設定

4.3.3 PTZ 操作の実行

ライブビューモードでは PTZ 操作ボタンを使ってカメラレンズのパン/チルト/ズーム操作ができます。マウスの相対的な位置に応じてディスプレイウィンドウ上に 8 方向のボタン(上、下、左、右、左上、右上、左下、右下)が現れます。

方向ボタンをクリックしてパン/チルトの動きを操作してください。



図 4.5 PTZ コントロールパネル

[ズーム]/[アイリス]/[フォーカス] ボタンをクリックしてレンズ操作を実行します。

PTZ操作ボタンの説明は、下表を参照してください。

表 4.2 PTZ コントロールボタンの説明

ボタン	説明
	ズームイン/アウト
	近く/遠くにフォーカス
	絞り開く/閉じる
	明るい
	ワイパー
	パン/チルト動作のスピード調整

4.3.4 プリセットの設定/呼び出し

プリセットの設定:

1. ライブビューモードでPTZ操作エリアから をクリックすると、プリセット設定インターフェースに進みます。
2. プリセットリストから、プリセット番号を選択します。

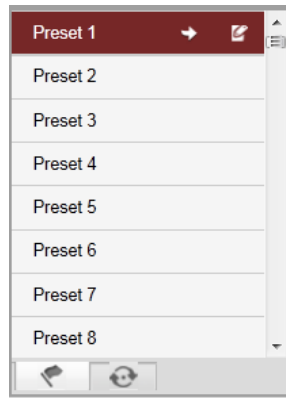


図 4.6 プリセットの設定

3. PTZ操作ボタンを使ってレンズを希望する位置に移動します。次のいずれかのコマンドを使用することができます。
 - カメラを右または左にパンします。
 - カメラを上または下にチルトします。
 - ズームインまたはズームアウトします。
 - レンズのフォーカスを再調整します。
4.  アイコンをクリックして現在のプリセットの設定を終了します。



適用される PTZ プロトコルによりませんが、最大 256 までのプリセットが設定できます。

プリセットの呼び出し:

この機能で、イベント発生時にカメラを事前に指定した位置に向けることができます。

事前定義されたプリセットについては、任意のプリセットシーンをいつでも呼び出すことができます。

ライブビューモードで事前定義されたプリセットをリストから選択し、 アイコンをクリックすることでプリセットを呼び出すことができます。

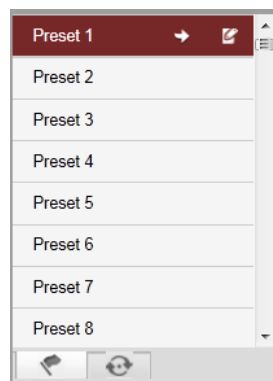


図 4.7 プリセット呼び出し

アラームへのリンク:

アラームイベントの発生時、プリセットはアラーム入力に対するリンクとして利用することができます。



図 4.8 PTZ リンク

PTZ 設定 ([リモート設定] > [アラーム設定] > [アラーム入力] > [リンク方式])についてはアラームの設定と処理方法章を参照してください。

4.3.5 パトロールの設定/呼び出し

パトロールの設定:

1. ライブビューモードでPTZ操作エリアから  をクリックすると、パトロール設定インターフェイスに進みます。
2. 設定するパトロール番号をパトロールリストから選択します。



図 4.9 パトロールの設定

3.  ボタンをクリックし、パトロール経路インターフェイスに進みます。

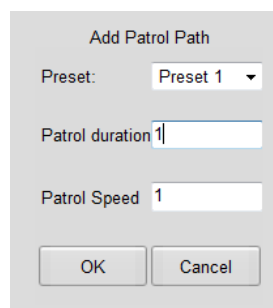


図 4.10 パトロール経路を追加

4. プリセット番号、1つのプリセットに対する滞留時間およびパトロールの速度を含む、パトロールパラメータを設定します。

プリセット: パトロールのサイクルにおいてPTZがしたがう順番を決定します。

パトロール時間:対応するキーポイントに留まる時間間隔を示します。持続時間は1から30秒までです。

パトロール速度: 次のキーポイントに移るPTZのスピードを定義します。速度は1から40の間で設定できます。



パトロール時間およびパトロール速度のテキストフィールドの数値を変更する際にはキーボードの **Backspace** キーを長押ししてください。

5. **[OK]** をクリックして経路を現在のパトロールに保存します。



図 4.11 パトロールパスへの追加

6. 上記の手順3から5を繰り返してさらにパトロール経路を追加します。

 をクリックして既に存在するパトロール経路の編集ができます。 をクリックすると削除できます。

7.  をクリックし、パトロールの設定を保存します。

他のパトロールを設定するには、上記の手順を繰り返します。

パトロールの呼び出し:

パトロールを呼び出すと、PTZ カメラは事前定義されたパトロール経路にしたがって移動します。

ライブビューモードで事前定義されたパトロールをリストから選択し、 アイコンをクリックすることでパトロールを呼び出すことができます。 をクリックすると呼び出しを停止できます。



図 4.12 パトロールの呼び出し

4.4 ビデオパラメータの設定

目的:

明るさ、コントラスト、彩度と色相を含むビデオパラメータを設定することができます。

手順:

1. ライブビューインターフェイスで右下隅の **Video parameters** ボタンをクリックするとビデオパラメータ設定インターフェイスが展開します:

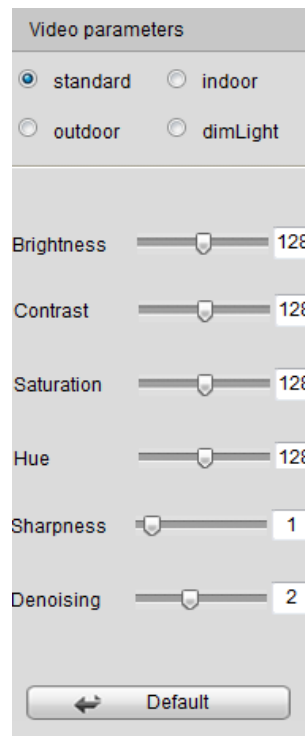


図 4.13 ビデオパラメータ設定

2. さまざまな光の条件に応じて、モードを選択します。4つのモードが選択可能です:
 - **標準**: 一般的な照明条件に適しています (デフォルト)。
 - **屋内**: イメージは比較的スムーズになります。
 - **屋外**: イメージは比較的明確で、よりシャープになります。コントラストと彩度の度合いは高くなります。
 - **薄明かり**: イメージは他の3つのモードよりスムーズになります。
3. スライダーを動かして、ライブビューの明るさ、コントラスト、再度または色相を 0 から 255 までで設定します。デフォルト値は、明るさ、コントラスト、色相については 128 で、彩度は 136 です。
4. スライダーを動かして、シャープネスを 0 から 15 までで、ノイズ除去レベルを 0 から 3 までで設定します。デフォルトの値は、シャープネスは 3、ノイズ除去レベルは 1 です。



 **Default** ボタンをクリックするとデフォルト設定を復元できます。

第5章 デバイス設定

5.1 ローカル設定

[設定]>[ローカル設定]をクリックしてローカル設定インターフェイスに進みます。

The image shows the 'Local Configuration' window. It contains several settings, each with a dropdown menu or a text input field followed by a 'Browse' button. The settings are: Protocol (TCP), Stream Type (Main Stream), Image Size (Auto-fill), Record File Size (512M), Live View Performance (Balanced), Auto Start Live View (No), Highlight Event Area (Disable), Save record files to (C:\Users), Save snapshots in live view to (C:\Users), Save snapshots when playback to (C:\Users), Save clips to (C:\Users), and Save downloaded files to (C:\Users). There is a 'Save' button at the bottom left.

図 5.1 ローカル設定

以下の設定項目を設定します。

プロトコル種別:ストリーム伝送のプロトコル種別を TCP または UDP に設定します。

- **UDP:** よりリアルタイムな音声とビデオのストリームを提供します。
- **TCP:** ストリームデータの完全な伝送とより高いビデオ品質を保証し、さすが、リアルタイム性はあまりよくありません。

ストリーム種別: Web ブラウザーによるライブビューで使われるストリーム種別をメインストリームまたはサブストリームから選択します。メインストリームとサブストリームのそれぞれのパラメータ設定についてはビデオ設定節を参照してください。

画像サイズ: 分割画面ビューモードを 4:3、16:9 またはオートフィルから選択します。

録画ファイルサイズ: マニュアル録画の際の圧縮ビデオファイルのサイズを 256M、512M または 1G から選択します。

ライブビューパフォーマンス: ライブビューパフォーマンスを最短遅延、リアルタイム、バランスまたはなめらかさに設定します。

ライブビューを自動開始: Web ブラウザを開いた際のライブビューの自動開始を有効または無効にします。

イベント領域をハイライト: イベント領域のハイライトを有効または無効にします。この機能を有効にすると、動体検知領域の中で移動する対象を示す動体検知トリガーフレームが緑色でハイライトされるようになります。8.4.1章 動体検知の設定を参照してください。

録画ファイル保存先: 手動録画したビデオファイルの保存先パスを設定します。

ライブビューのスナップショットの保存先:ライブビューモードで手動キャプチャした画像の保存先パスを設定します。

再生時のスナップショットの保存先:再生モードでキャプチャした画像の保存先パスを設定します。

クリップの保存先:再生モードでクリップしたビデオファイルの保存先パスを設定します。

ダウンロードしたファイルの保存先:ダウンロードしたビデオファイルまたは画像の保存先パスを設定します。



[参照]ボタンをクリックしてビデオファイルや画像を保存するディレクトリを変更できます。

5.2 デバイスパラメータ

5.2.1 時刻設定

手順:

1. [リモート設定]>[デバイス設定]>[時刻設定] をクリックし、時刻設定インターフェイスに進みます:

図 5.2 時刻設定

2. タイムゾーンを選択します。
ドロップダウンメニューからデバイスの所在地に最も近いタイムゾーンを選択してください。

図 5.3 タイムゾーン設定

3. 時刻同期設定を NTP サーバまたは手動のいずれかに設定します。

● NTP サーバによる時刻同期の設定

ネットワークタイムプロトコル（NTP）サーバをデバイスに設定してシステムの日付/時間の精度を保証できます。

デバイスがタイムサーバのプロパティが設定されたダイナミックホストコンフィギュレーションプロトコル(DHCP)ネットワークに接続されている場合、カメラはタイムサーバと自動的に同期します。

チェックボックスをチェックして NTP 機能を有効にし、以下の設定を行います：

NTP サーバ:NTP サーバの IP アドレス。

NTP ポート:NTP サーバのポート。

間隔:NTP サーバとの同期実行の間の時間間隔です。1 から 10080 分の間で設定できます。

The image shows a configuration window titled "NTP". It has a radio button labeled "NTP" which is selected. Below it are three input fields: "NTP Server:" with the value "210.72.145.44", "NTP Port:" with the value "123", and "Interval:" with the value "60" and a "min." label to its right.

図 5.4 NTP サーバーによる時刻同期



デバイスがパブリックネットワークに接続されている場合、National Time Center のサーバのような時間同期機能のある NTP サーバを使用する必要があります（IP アドレス:210.72.145.44）。デバイスがさらにカスタマイズされたネットワークで設定されている場合、NTP ソフトウェアを使用して時間同期に使用する NTP サーバを確立できます。

● 手動時間同期の設定

手動時刻同期機能を有効化し、 アイコンをクリックしてポップアップするカレンダーからシステム時刻を設定します。

アイコンをクリックすることで迅速に時間の選択ができます。

The image shows a configuration window titled "Manual Time Sync". It has a radio button labeled "Manual Time Sync." which is selected. Below it are two input fields: "Device Time" with the value "2013-07-02T17:59:02" and "Set Time" with the value "2013-07-02T17:33:31". There is a checkbox labeled "Sync. with computer time" which is unchecked.

The image shows a calendar for July 2013. The date "2" is highlighted. Below the calendar is a time selection interface showing "Time 17 : 33 : 31" with up and down arrows for each component. There is an "OK" button at the bottom right.

図 5.5 手動時間同期

[コンピュータ時刻と同期]チェックボックスをチェックして、時刻をお使いのコンピュータの時刻と同期させることもできます。

● [DST]タブページをクリックして DST 機能を有効化し、DST 期間の日付を設定します。

図 5.6 夏時間(DST)設定

4. **[保存]**ボタンをクリックして設定を保存します。

5.2.2 録画パック時間の設定

録画ファイルはデフォルトでは 1G ずつでパックされます。詳細設定ページから、パックの時間の長さをカスタマイズすることができます。

手順:

1. **[リモート設定]>[デバイス設定]>[詳細]** をクリックし、詳細設定インターフェイスに進みます。

図 5.7 録画パック時間

2. 録画ファイルのパックの長さを設定します。



注記

パックの時間は 1 から 300 分までです。

3. **[保存]**をクリックして設定を保存します。

5.3 ネットワーク設定

5.3.1 TCP/IP の設定

デバイスをネットワーク経由で使用する前にネットワーク設定を適切に設定する必要があります。

手順:

1. **[リモート設定]>[ネットワーク設定]>[TCP/IP]**をクリックし、TCP/IP 設定インターフェイスに進みます:

図 5.8 TCP/IP 設定

2. NIC 種別、IPv4 アドレス、IPv4 サブネットマスク、IPv4 デフォルトゲートウェイおよび MTU 設定を含む NIC 設定を行います。



MTUの適正な値の範囲は500～1500 です。

3. DHCP サーバーを使用できる場合、DHCP のチェックボックスをクリックして、そのサーバーから IP アドレスとその他のネットワーク設定を自動取得できます。
4. 一部のアプリケーション(例: E メール送信)のために DNS サーバ設定が必要な場合、[優先 DNS サーバ] および [代替 DNS サーバ] をここで適切に設定する必要があります。

図 5.9 DNS サーバ設定

5. **[保存]**ボタンをクリックして上記の設定を保存します。

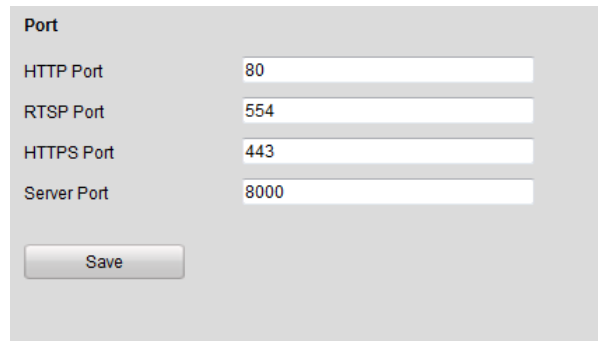
5.3.2 ポート設定

目的:

HTTP ポート、RTSP ポート、HTTPS ポートなどのポート番号を設定できます。

手順:

1. **[設定]** > **[ネットワーク設定]** > **[ポート]**をクリックし、ポート設定インターフェイスに進みます:



Port	
HTTP Port	80
RTSP Port	554
HTTPS Port	443
Server Port	8000

Save

図 5.10 ポート設定

2. HTTP ポート、RTSP ポート、HTTPS ポートおよびカメラのサーバポート 8000 番を設定します。
HTTP ポート:デフォルトのポート番号は 80 です。
RTSP ポート:デフォルトのポート番号は 554 です。
HTTPS ポート:デフォルトのポート番号は 443 です。
サーバポート:デフォルトのポート番号は 8000 です。
3. **[保存]**をクリックして設定を保存します。



設定をアクティベートするためにデバイスを再起動する必要があります。

5.3.3 DDNS 設定

デバイスがデフォルトネットワークとして PPPoE を使用するように設定されている場合、ネットワークアクセスにダイナミック DNS (DDNS) を使用するよう設定する場合があります。

システムがDDNSを使用するよう設定する前に、DDNSプロバイダとの事前登録が必要です。

手順:

1. **[リモート設定]>[ネットワーク設定]>[DDNS設定]**をクリックし、DDNS設定インターフェイスに進みます:



DDNS	
☒ Enable DDNS	
DDNS Type	HIDDNS
Area	Custom
Server Address	www.hik-online.com
Domain	
User Name	
Password	
Confirm	

Save

図 5.11 DDNS 設定

2. **[DDNSを有効化]**のチェックボックスにチェックを入れてこの機能を有効化します。
3. **DDNSタイプ**を選択します。5つのDDNSタイプを個別に選択できます。IPサーバ、DynDNS、PeanutHull、HiDDNSまたはNO-IPです。

- **DynDNS:**

- (1) DynDNSの**サーバアドレス**（例:members.dyndns.org）を入力します。
- (2) **デバイスドメイン名**のテキストフィールドに、DynDNSウェブサイトで取得したドメインを入力します。
- (3) DynDNSウェブサイトで登録された**ユーザ名とパスワード**を入力します。
- (4) **[保存]**をクリックして設定を保存します。

図 5.12 DynDNS 設定

- **IPサーバ:**

- (1) IPサーバの**サーバアドレス**を入力します。
- (2) **[保存]**をクリックして設定を保存します。



IPサーバの場合、ISP からの静的 IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイおよび優先 DNS を適用する必要があります。**[サーバIP]**には、IPサーバソフトウェアを実行しているコンピュータの固定IPアドレスを入力する必要があります。

図 5.13 IP サーバ設定

- **PeanutHull:**

- (1) PeanutHullウェブサイトで取得した**ユーザ名とパスワード**を入力します。
- (2) **[保存]**をクリックして設定を保存します。

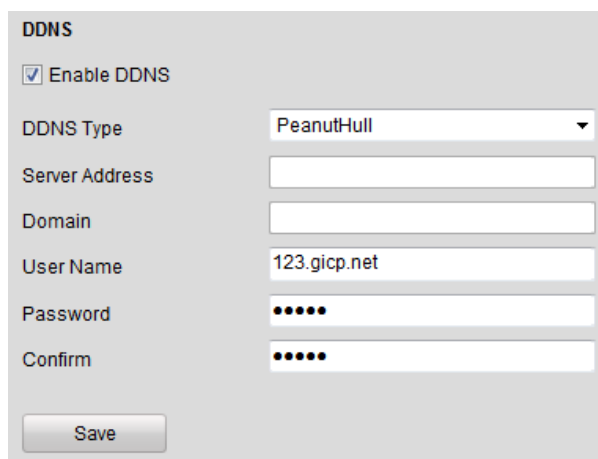


図 5.14 PeanutHull 設定

- **HiDDNS:**

- (1) HiDDNSサーバのサーバアドレスを入力します。 www.hik-online.com。
- (2) デバイスのドメイン名を入力します。まず、HiDDNSサーバでデバイスドメイン名の別名を登録してから、エンコーダーのドメイン名に別名を入力します。エンコーダーに直接ドメイン名を入力して新しいものを作成することもできます。



デバイスドメイン名の新しい別名がエンコーダーに定義されている場合、サーバー上に登録されている古いものと置き換わります。

- (3) **[保存]**をクリックして設定を保存します。

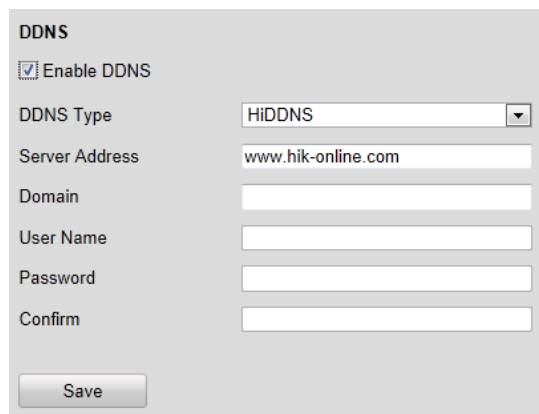


図 5.15 HiDDNS 設定

5.3.4 PPPoE 設定

お使いのデバイスは、イーサネット経由のポイントトゥポイントプロトコル（PPPoE）でのアクセスも可能です。

手順:

1. **[リモート設定]>[ネットワーク設定]>[PPPoE設定]**をクリックし、PPPoE設定インターフェイスに進みます:

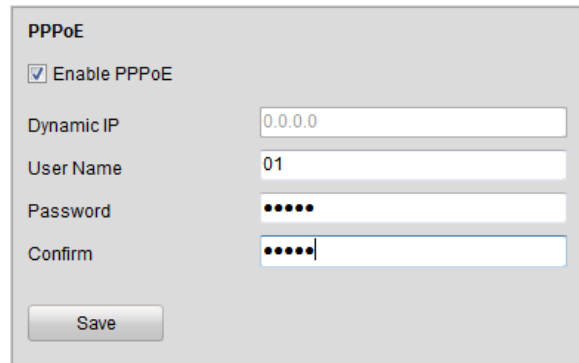


図 5.16 PPPoE 設定

2. **PPPoE**チェックボックスを選択してこの機能を有効にします。
3. **ユーザ名、パスワード**を入力して、**PPPoE**アクセス用の**パスワードを確認**します。



ユーザ名とパスワードはご利用のISPによって割り当てられる必要があります。

4. **[保存]**ボタンをクリックして保存し、終了します。

5.3.5 E メール設定

目的:

動体検知イベント、ビデオ損失、干渉防止などのアラームイベントが検知された場合に指定されたすべての受信者に E メール通知を送信するようにデバイスを設定できます。

始める前に

1. Eメール設定を行う前に、デバイスがSMTPメールサーバを管理するローカルエリアネットワーク（LAN）に接続されている必要があります。また、そのネットワークも、通知を送信したいEメールアカウントの場所に合わせたイントラネットやインターネットに接続されている必要があります。
2. Eメール機能を使用する前に、**[リモート設定]>[ネットワーク設定]>[TCP/IP]** の下のDNSサーバ設定を行ってください。

手順:

1. 基本ネットワーク設定に入り(**[リモート設定]>[ネットワーク設定]>[TCP/IP]**)、IPv4アドレス、IPv4サブネットマスク、IPv4デフォルトゲートウェイおよび優先DNSサーバを設定します。
2. **[リモート設定]>[ネットワーク設定]>[Eメール設定]**をクリックし、Eメール設定インターフェイスに進みます:

Email

☐ Authentication

User Name

Password

Confirm

SMTP Server

SMTP Port ☐ Enable SSL

Interval ☒ Attached Image

Sender

Sender's Address

Choose Receiver

Receiver

Receiver's Address

Save

図 5.17 E メール設定(1)

3. 以下のEメール設定を行います。

認証(オプション):お使いのメールサーバが認証を必要とする場合、このチェックボックスをチェックして、サーバへのログイン認証を利用するようにし、メールアカウントのログインユーザ名とパスワードを入力します。

SMTPサーバ:SMTPサーバIPアドレスかホスト名（例:smtp.263xmail.com）。

SMTPポート:SMTPポート。SMTPに使用されているデフォルトTCP/IPポートは25です。

- **SSLを有効化:**SMTPサーバで必要であれば、[SSLを有効化する]チェックボックスを選択します。
SSLが有効化されている場合、SMTPに使用されるデフォルトTCP/IPポートは465です。

間隔:間隔は、2件の添付画像送信のアクション間の時間を示します。

- **添付画像:**アラームの画像を E メールに添付して送信したい場合、[画像を添付] チェックボックスをチェックしてください。

送信者:送信者の名前。

送信者のアドレス:送信者のEメールアドレス。

受信者を選択:Eメールが送信される宛先の受信者を選択します。最大3人の受信者を設定できます。

受信者:通知を受けるユーザの名前。

受信者のアドレス:通知を受けるユーザのEメールアドレス。

図 5.18 E メール設定(2)

4. **【保存】**をクリックし、Eメール設定を保存します。

さらなる情報については、次のセクション以降を参照してください。

[Eメール送信]のアラームリンク方式については動体検知設定節、外部アラーム入力の設定節、ビデオ損失アラームの検知節、ビデオ干渉アラームの設定節および異常への対応処理節を参照してください。

5.3.6 ネットワークディスクの追加

SATA ディスクが接続されたモデルの場合、ネットワークディスクの構成が選択できます。

始める前に:

1. ネットワーク上のネットワークストレージデバイスが利用可能であり、適切に接続されていなければなりません。
2. ネットワークストレージデバイスがNASまたはIP SANモードで正しく設定されていなければなりません(IP SAN/NASのユーザマニュアルを参照してください)。

手順:

1. **[リモート設定]>[ネットワーク設定]>[NetHDD]**をクリックし、NetHDD 設定インターフェイスに進みます。

図 5.19 ネットワークディスクの検索

2. IP アドレスを入力することで対象のストレージサーバで利用可能な NAS/IP SAN を検索することができます。
 - 1) 図 5.19 に示すように、NAS または IP SAN の種別を選択します。
 - 2) 対象のストレージサーバの IP アドレスを入力します。
 - 3) **[検索]**をクリックするとそのストレージサーバで利用可能な NAS または IP SAN ディスクが下部に表示されます。
3. 図 6.20 に示すように、検索された NAS または IP SAN ディスクをリストから選択してダブルクリックすることで追加できます。
 サーバの IP アドレスおよびファイルパスをテキストフィールドに入力することで NAS または IP SAN を手動で追加することもできます。
NAS モード:ストレージデバイスの IP アドレスを入力してください。デフォルトファイルパスは /dvr/share で、この share 名はネットワークストレージの DVR 作成時にユーザ定義されるものです。
IP SAN モード:ストレージデバイスの IP アドレスを入力してください。デフォルトファイルパスは iqn.2004-05.storos.t-service ID で、この service ID はネットワークストレージの iSCSI ボリューム作成時にユーザ定義されるものです。
4. **[保存]**ボタンをクリックして設定したネットワークディスクを追加します。

The screenshot shows the 'NetHDD' configuration window. It contains a table with 8 rows for HDD configuration. The first two rows are populated with '172.10.14.10' as the Server Address and '/dvr/zip' and 'iqn.3228-05.storos.t-2' as File Paths, both with 'NAS' selected in the Type dropdown. Below this is a search section for 'IP SAN' with a 'Server Address' field containing '172.10.14.10' and a 'Search' button. A results table below the search shows 5 entries with 'No.' and 'File Path' columns, listing various iqn addresses. A 'Save' button is at the bottom left.

HDD No.	Server Address	File Path	Type
1	172.10.14.10	/dvr/zip	NAS
2	172.10.14.10	iqn.3228-05.storos.t-2	NAS
3			NAS
4			NAS
5			NAS
6			NAS
7			NAS
8			NAS

No.	File Path
1	iqn.3228-05.storos.t-2
2	iqn.3228-05.storos.t-3
3	iqn.3228-05.storos.t-19
4	iqn.3228-05.storos.t-77
5	iqn.3228-05.storos.t-22

図 5.20 ネットワークディスク設定

5. 追加されたネットワークディスクを初期化します。
 - 1) **[リモート設定]>[HDD 管理]**をクリックして HDD 設定メニューに入ると、追加されたネットワークディスクの容量、空き容量、ステータス、種別およびプロパティを確認できます。
 - 2) ネットワークディスクのステータスが**未初期化**の場合、チェックボックスをチェックしてリストからディスクを選択し、**[初期化]**ボタンをクリックしてディスクの初期化を開始します。
 - 3) 初期化が完了するとディスクのステータスは**正常**になります。

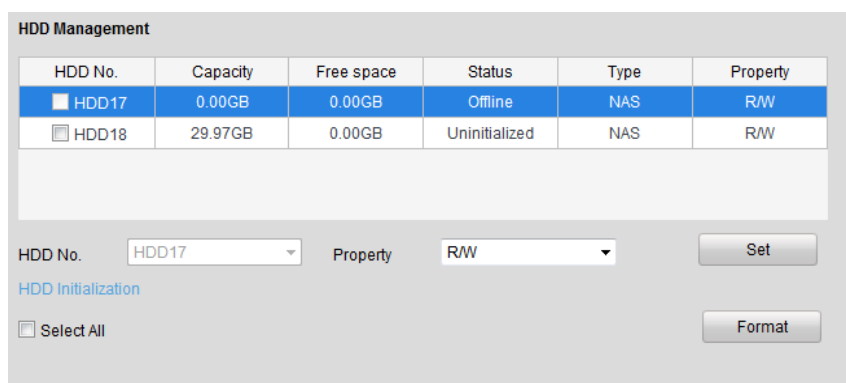


図 5.21 初期ディスク

4) 追加されたネットワークディスクのプロパティを設定します。

HDD 番号を選択し、ドロップダウンメニューからプロパティを選択し、R/W、読み込みのみまたは冗長構成のいずれかから選択します。

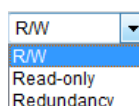


図 5.22 HDD プロパティの設定



- ネットワーク管理におけるファイルパスの作成については IP SAN/NAS のユーザマニュアルを参照してください。
- 最大、8 台の NAS ディスクおよび 1 つの IP SAN ディスクが DS-6700HQHI-SATA に接続可能です。

5.3.7 SNMP 設定

シンプルネットワークマネジメントプロトコル(SNMP)は IP ネットワーク上のデバイス管理用のインターネット標準プロトコルです。SNMP を利用してカメラのステータスやパラメータ、アラーム関連情報を取得できます。

始める前に:

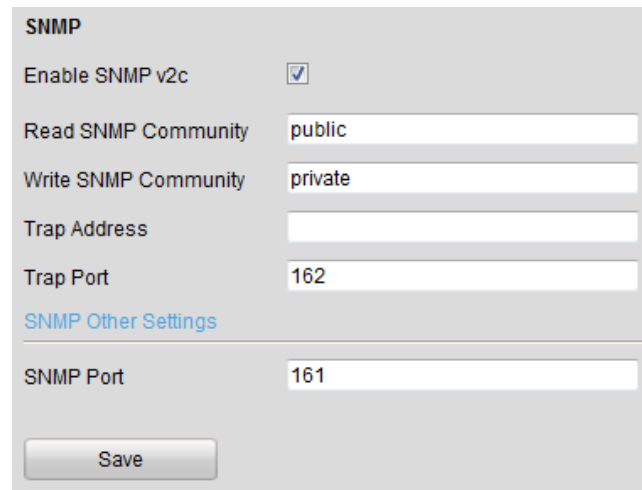
SNMPを設定する前に、SNMPソフトウェアをダウンロードし、SNMPポート経由でデバイス情報を受信して管理します。トラップアドレスを設定することで、デバイスからアラームイベントおよび異常についてのメッセージを監視センターに送信することができます。



SNMP バージョンは SNMP ソフトウェアのバージョンと同じにする必要があります。

手順:

1. [リモート設定] > [ネットワーク設定] > [SNMP]をクリックし、SNMP 設定インターフェイスに進みます。
2. [SNMP v2c を有効化]チェックボックスをチェックし、SNMP 読み取りコミュニティ(デフォルト: public)、SNMP 書き込みコミュニティ(デフォルト: private)、トラップアドレス(デフォルト: empty)およびトラップポート(デフォルト: 162)を設定します。



SNMP

Enable SNMP v2c ☒

Read SNMP Community public

Write SNMP Community private

Trap Address

Trap Port 162

[SNMP Other Settings](#)

SNMP Port 161

Save

図 5.23 SNMP 設定(1)

3. SNMP ポートを設定します(デフォルト: 161).
4. **[保存]** をクリックし、上記の設定を保存します。

5.3.8 UPnP™ 設定

目的:

UPnP™で、デバイスはシームレスにネットワーク上のその他のデバイスの存在を発見し、データ共有や通信などの機能的なネットワークサービスを確立できます。UPnP™機能を用いて、デバイスをルータ経由で迅速に WAN に接続させたい場合、デバイスの UPnP™パラメータを設定してください。

始める前に:

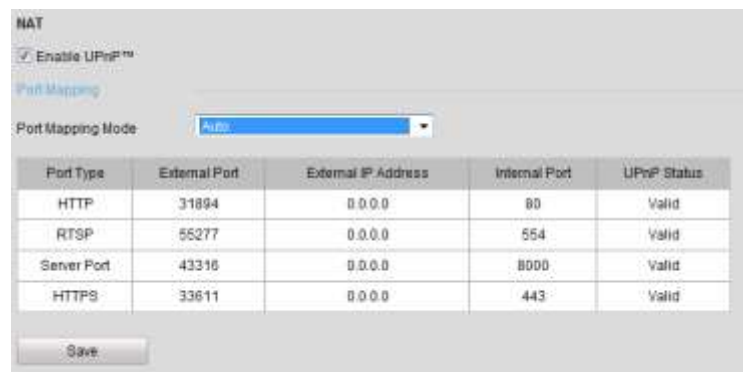
デバイスの UPnP™機能を有効化したい場合、デバイスを接続するルータの UPnP™機能を有効化する必要があります。デバイスのネットワーク動作モードがマルチアドレスに設定されている場合、デバイスのデフォルトルートをルータの LAN IP アドレスと同じネットワークセグメント内に配置する必要があります。

手順:

1. **[リモート設定]>[ネットワーク設定]>[NAT]**をクリックし、NAT 設定インターフェイスに進みます。
2. UPnP™ 機能を有効にするチェックボックスを選択します。
3. ポートマッピングモードをオートまたは手動のいずれかから選択します。

オートを選択した場合、ポートのマッピングはルータによって自動的に割り当てられます。

手動を選択した場合、手順 4 を実行してポートのマッピングを編集します。



NAT

☒ Enable UPnP™

[Port Mapping](#)

Port Mapping Mode Auto

Port Type	External Port	External IP Address	Internal Port	UPnP Status
HTTP	31894	0.0.0.0	80	Valid
RTSP	55277	0.0.0.0	554	Valid
Server Port	43316	0.0.0.0	8000	Valid
HTTPS	33611	0.0.0.0	443	Valid

Save

図 5.24 UPnP™設定-オート

4. HTTP ポート(Web ブラウザアクセス用)、SDK ポートマッピング(クライアントソフトウェアアクセス用)、RTSP ポートおよび HTTPS ポートをそれぞれ設定してください。



- 実際の要件に合わせて、デフォルトポート番号の使用や変更が可能です。
 - 「ポート」はルータ内でのマッピング用のポート番号を示します。
5. **[保存]**をクリックして設定を保存します。
ポートマッピングが正常に完了すれば、ポートステータスエリアからポートマッピングのステータスを確認できます。

Protocol Name	Enable	External Port	Router LAN IP	Router WAN IP	Status
HTTP	Yes	85	192.168.1.1	172.6.21.31	Valid
RTSP	Yes	554	192.168.1.1	172.6.21.31	Valid
HTTPS	Yes	443	192.168.1.1	172.6.21.31	Valid
SDK	Yes	8000	192.168.1.1	172.6.21.31	Valid

図 5.25 UPnP™設定-手動

5.3.9 HTTPS 設定

目的:

HTTPS (Hyper Text Transfer Protocol Secure)は転送されるデータがセキュアソケットレイヤー(SSL)またはトランスポートレイヤーセキュリティ(TLS)によって暗号化されることを保証します。HTTPS は、ウェブサイトや通信する関連 Web サーバの認証を提供し、安全でないネットワーク上においてもセキュアなチャネルを確立します。

HTTPS URL は「https://」で始まり、デフォルトでは 443 番ポートを利用します。

手順:

1. **[リモート設定] > [ネットワーク設定] > [HTTPS]**をクリックし、HTTPS 設定インターフェイスに進みます。
2. 自己署名証明書か権限を持つ証明書を作成します。



図 5.26 HTTPS 設定

タスク 1：自己署名証明書の作成

- (1) **[作成]**ボタンをクリックして次のダイアログボックスを作成します。

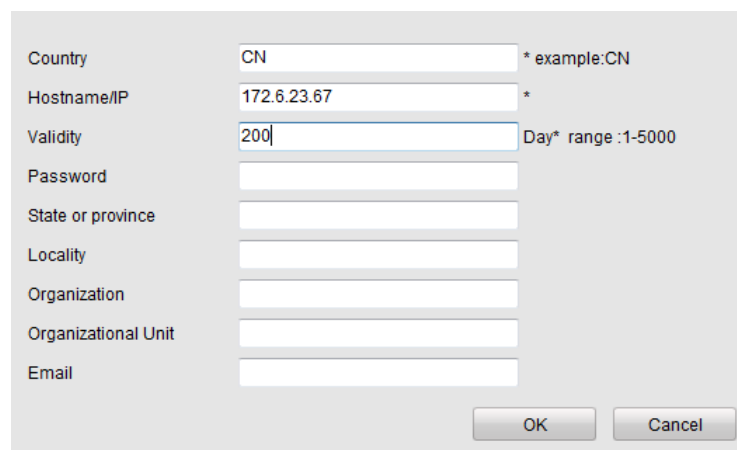


図 5.27 自己署名証明書を作成

- (2) 国、ホスト名/IP、有効期限、その他の情報を入力します。

- (3) **[OK]**をクリックして設定を保存します。

タスク 2：権限を持つ証明書の作成

- (1) **作成**ボタンをクリックして証明書のリクエストを作成します。
- (2) 証明書のリクエストをダウンロードして、信頼のある証明書担当に送信して署名してもらいます。
- (3) 署名済みの有効な証明書を受信したら、デバイスに証明書をインポートします。
3. 正常に作成され、インストールされた証明書がある場合、このチェックボックスをオンにして HTTPS 機能を有効にします。



HTTPS 機能が有効化された場合、IP アドレスを入力するとシステムはデフォルトで HTTPS ログインモードを利用します(例: <https://192.0.0.64>)。または、HTTP モードを利用してデバイスにログインしたい場合、<http://IP address/index.asp> (例: <http://192.0.0.64/index.asp>) と入力することもできます。

5.3.10 EZVIZ クラウド P2P の設定

目的:

EZVIZ クラウド P2P には、接続した DVR のアクセスと管理のための携帯電話アプリケーションとサービスプラットフォームページがあり、便利に監視システムに遠隔アクセスできます。

手順:

1. **[設定]>[ネットワーク設定]>[プラットフォームアクセス]**をクリックし、EZVIZ クラウド P2P 設定インターフェイスに進みます。
2. デフォルトのサーバアドレスはdev.ezviz7.comです。サーバをカスタマイズしたい場合、**[カスタム]**を有効化してテキストフィールドにサーバアドレスを入力できます。
3. **[有効化]**のチェックボックスにチェックを入れてこの機能を有効化します。

5.3.11 マルチキャストアドレスの設定

目的:

マルチキャストアドレスを設定して、ネットワークを通じてカメラの最大台数以上のライブビューを実行できます。

マルチキャストアドレスは、224.0.0.0～239.255.255.255 のクラス D の IP 範囲です。239.252.0.0～239.255.255.255 の範囲の IP アドレスの使用を推奨します。

手順:

4. **[リモート設定]>[ネットワーク設定]>[詳細]**をクリックし、マルチキャスト設定インターフェイスに進みます。

図 5.28 マルチキャストアドレスの設定

5. マルチキャストアドレスをテキストフィールドに入力します。
6. **[保存]**をクリックして設定を保存します。



マルチキャストアドレス設定を有効化するためデバイスは自動的にリブートします。

5.3.12 遠隔アラームホストの設定

目的:

遠隔アラームホストを設定すると、アラーム起動時にデバイスがアラームイベントや異常メッセージをホストに送信します。遠隔アラームホストには、CMS（クライアント管理システム）ソフトウェアをインストールしておく必要があります。

手順:

1. [リモート設定]>[ネットワーク設定]>[詳細]をクリックし、アラームホスト設定インターフェイスに進みます。



図 5.29 リモートアラームホスト

2. テキストフィールドで**アラームホスト IP**と**アラームホストポート**を入力します。
アラームホスト IPは、CMS（クライアント管理システム）ソフトウェア（iVMS-4200 など）がインストールされている遠隔 PC の IP アドレスを示します。**アラームホストポート**は、ソフトウェアに設定されたアラーム管理ポート（デフォルトポートは 7200）と同じにする必要があります。¥
3. [保存]をクリックして設定を保存します。

第6章 カメラ設定

6.1 OSD 設定

6.1.1 ディスプレイ設定

目的:

画面に表示されるカメラの名前と時刻をカスタマイズすることができます。

手順:

1. [リモート設定]>[カメラ設定]>[表示設定]をクリックし、表示設定インターフェイスに進みます:



図 6.1 ディスプレイ設定

2. ドロップダウンリストからカメラを選択します。
3. [カメラ名] テキストフィールドにカメラ名を入力します。

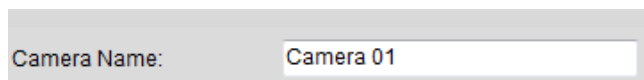


図 6.2 カメラ名編集

4. 必要に応じてチェックボックスをチェックし、カメラの名前、日付または週の表示を選択します。
5. 時刻の形式、日付の形式、OSD 表示モードをドロップダウンリストからオプションを選んで設定します。
6. ライブビューの映像上で、OSD の位置を画面上のテキストフレームを動かすことで調整できます。



図 6.3 OSD 位置の調整

7. 現在のカメラの表示設定を他のカメラにコピーしたい場合、[カメラにコピー]パネルを展開し、コピーするカメラ(複数可)を選択するか、[すべて選択]をクリックしてすべてのカメラを選択してください。

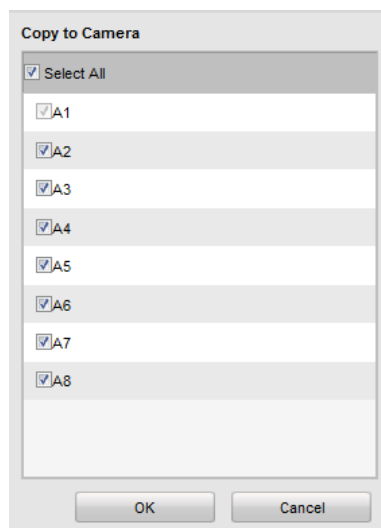


図 6.4 カメラへのコピー

8. [OK]をクリックし、上記の設定を確認します。

6.1.2 テキストオーバーレイの設定

手順:

1. [リモート設定]>[カメラ設定]>[テキストオーバーレイ設定]をクリックし、テキストオーバーレイ設定インターフェイスに進みます。
2. ドロップダウンリストからカメラを選択します。
3. ユーザ定義のテキストコンテンツを編集します。
下のテキストボックスにあるチェックボックスをクリックし、文字を入力します。8 文字までの文字列が入力できます。
4. [保存]をクリックすると、編集したテキストが画像に表示されます。
5. プレビューの映像上で、テキストの位置を画面上のテキストフレームを動かすことで調整できます。

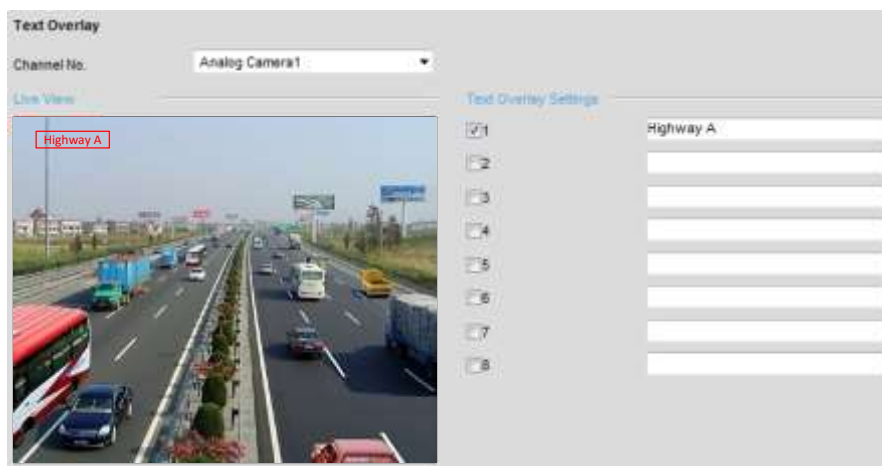


図 6.5 テキストオーバーレイ設定

6. 現在のカメラのテキストオーバーレイ設定を他のカメラにコピーしたい場合、**[カメラにコピー]**パネルを展開し、コピーするカメラ(複数可)を選択するか、**[すべて選択]**をクリックしてすべてのカメラを選択してください。

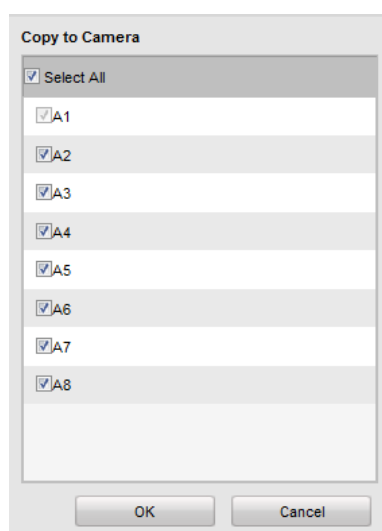


図 6.6 テキストオーバーレイ設定

7. **[OK]**をクリックし、上記の設定を確認します。

6.2 ビデオ設定

手順:

1. [リモート設定]>[カメラ設定]>[ビデオ設定]をクリックし、ビデオ設定インターフェイスに進みます。

Video Settings

Channel No. Analog Camera1

Front-end Resolution NO VIDEO

Stream Type Main Stream(Normal)

Video Type Video&Audio

Resolution 1920*1080

Bitrate Type Constant

Video Quality Medium

Frame Rate 30

Max. Bitrate 4096 Kbps

Video Encoding H.264

Copy to... Save

図 6.7 ビデオ設定

2. ドロップダウンリストから設定するカメラを選択します。
3. カメラの[ストリーム種別]をメインストリーム(ノーマル)、メインストリーム(イベント)、またはサブストリームから選択します。

メインストリームは通常、良好な帯域幅での録画とライブビューに用いられ、サブストリームは帯域幅が限られている場合のライブビュー表示に用いられます。ライブビューをメインストリームとサブストリームで切り替える場合には、ローカル設定章を参照してください。

4. 選択したメインストリームまたはサブストリームについて、以下のパラメータをカスタマイズすることができます:

ビデオ種別: ビデオ種別をビデオストリーム、ビデオ&オーディオ合成ストリームのいずれかから選択してください。オーディオ信号は、**ビデオ種別**が**ビデオ & オーディオ**の場合にのみ記録されます。

解像度: ビデオ入力の解像度を選択します。

ビットレートタイプ: 固定または可変のビットレートタイプを選択します。

ビデオ画質: ビットレート種別について[可変]が選択されている場合、6段階のビデオ品質が設定できます。

フレームレート: フレームレートを 1 から 30 fps までで設定します。

フレームレートは、ビデオストリームの更新の頻度を表すために用いられ、単位はフレーム毎秒(fps)です。フレームレートが高くなると画質が向上するので、ビデオストリーム中に動きがある場合には有利です。

最大ビットレート:最大ビットレートを 32 から 8192 Kbps までで設定します。

フレーム間隔:フレーム間隔を 1 から 400(フレーム) までで設定します。値が高いほどビデオの品質は低くなります。

ビデオエンコード:ビデオエンコードの規格を選択します。



MJPEG ビデオエンコーディング規格を選択した場合は、フレームレートを 1~15 fps に設定できません。最大ビットレートは設定できません。

5. 現在のカメラの表示設定を他のカメラにコピーしたい場合、**[カメラにコピー]**パネルを展開し、コピーするカメラ(複数可)を選択するか、**[すべて選択]**をクリックしてすべてのカメラを選択してください。

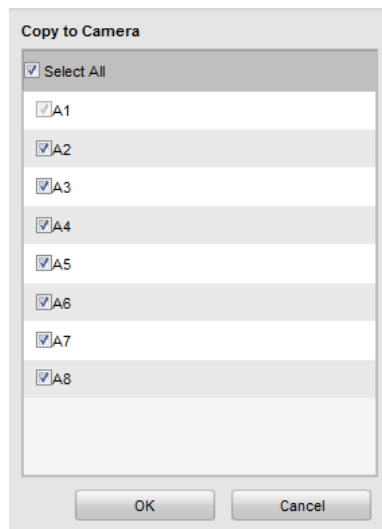


図 6.8 カメラへのコピー

6. **[OK]**をクリックし、上記の設定を確認します。

6.3 アラームの設定と処理方法

目的:

この節ではネットワークカメラを動体検知、外部アラーム入力、ビデオ損失、干渉防止や異常を含むアラームイベントに反応させるための設定方法を説明します。アラームイベントは監視センター通報、Eメール送信、アラーム出力トリガーといったアラームアクションをトリガーさせることができます。

6.3.3 動体検知設定

動体検知は監視シーンにおいて動体が検知された場合に、監視員に警報を送り、ビデオ録画をさせることができる機能です。

手順:

1. 動体検知エリアの設定

手順:

- (1) [リモート設定]>[カメラ設定]>[動体検知]をクリックし、動体検知設定インターフェイスに進みます。
- (2) カメラを選択して動体検知を設定します。
- (3) [動体検知を有効化] のチェックボックスをチェックします。

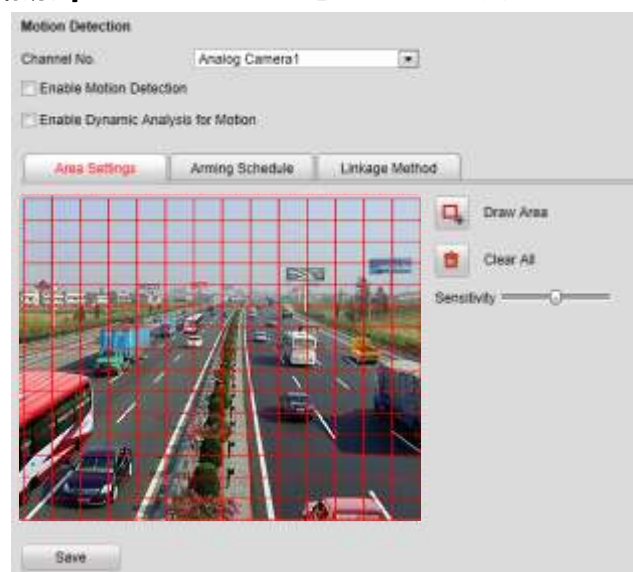


図 6.9 動体検知設定

- (4) [動体の動的分析を有効化]チェックボックスをチェックしてください。この機能を有効にすると、動体検知領域の中で移動する対象を示す動体検知トリガーフレームがライブビュー上に表示されるようになります。

- (5)  Draw Area ボタンをクリックします。動体検知領域を、ライブビデオ映像上でのマウスのクリックアンドドラッグで指定してください。



デフォルトでは、全画面動体検知が設定されています。

- (6)  Stop Drawing ボタンをクリックし、領域指定を終了します。



ボタンをクリックすると、領域をすべて消去します。

- (7) スライダー  Sensitivity :  を使用して、カメラの感度を設定します。

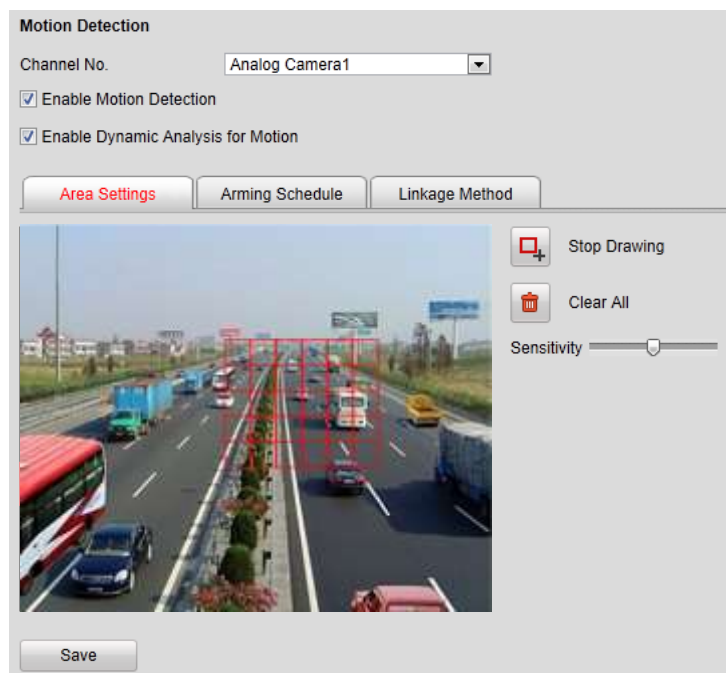


図 6.10 動体検知—領域設定

(8) [保存]ボタンをクリックし、設定を保存します。

2. 動体検知の監視スケジュール設定

手順:

(1) [監視時間]タブをクリックします。

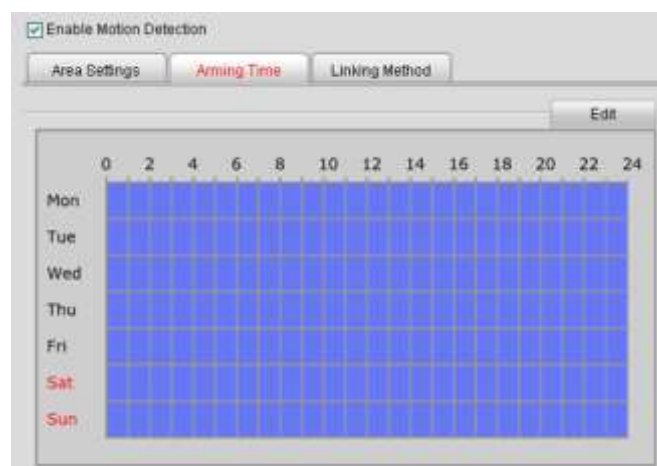


図 6.11 動体検知—監視時間設定

(2) [編集]ボタンをクリックして監視スケジュールを編集します。

The dialog box titled "Edit Schedule Time" has tabs for days of the week: Mon, Tue, Wed, Thu, Fri, Sat, Sun, and Holiday. The "Mon" tab is selected. Below the tabs is a table with 8 rows representing periods. Each row has columns for "Period", "Start Time", and "End Time".

Period	Start Time	End Time
1	00:00	24:00
2	00:00	00:00
3	00:00	00:00
4	00:00	00:00
5	00:00	00:00
6	00:00	00:00
7	00:00	00:00
8	00:00	00:00

Below the table are checkboxes for "Copy to Week" and "Select All". At the bottom, there are checkboxes for each day of the week (Mon, Tue, Wed, Thu, Fri, Sat, Sun, Holiday) and a "Copy" button. At the very bottom are "OK" and "Cancel" buttons.

図 6.12 動体検知—監視スケジュールの編集



注記

- 各時間帯の時間は重複できません。最大 8 件の時間帯を各曜日に設定できます。
- [休日設定]で休日のスケジュールを有効にしている場合、スケジュールドロップダウンリストで[休日]オプションが選択できます。
 - (3) 監視スケジュールを設定したい日を選択してください。
 - (4) ボタンをクリックして、監視スケジュール用に時間帯を設定してください。
 - (5) 監視スケジュールを設定した後、スケジュールを他の日にコピーすることができます(オプション)。
 - (6) [OK]ボタンをクリックし、設定を保存します。

3. 動体検知に対するアラームアクションの設定

目的:

イベントがトリガーされたときのアラームの種別を指定することができます。

The "Motion Detection" dialog box shows "Channel No." set to "Analog Camera1". The "Enable Motion Detection" checkbox is checked. There are three tabs: "Area Settings", "Arming Schedule", and "Linkage Method". The "Linkage Method" tab is selected.

Normal Linkage	Trigger Alarm Output	Trigger Channel
☐ Full Screen Monitoring		
☐ Audible Warning		
☐ Notify Surveillance Center		
☐ Send Email		
☐ Upload to FTP		

図 6.13 動体検知—リンク方式

手順:

- (1) **[リンク方式]**タブをクリックして設定インターフェイスに進みます。
- (2) 音声警報、監視センター通報、Eメール送信、FTPアップロードを含む、アラームリンク方式を選択します。

- **音声警報**

アラームが検知された際に、ビーブ音が鳴ります。

- **監視センター通報**

イベント発生時に異常やアラーム信号を遠隔アラームホストに送信します。アラームホストはリモートクライアントをインストールした PC を指します。

- **Eメール送信**

イベント発生時にアラーム情報を E メールでユーザ(複数可)に送信します。



イベント発生時に E メールを送信する場合、ネットワーク設定インターフェイスから関連パラメータを設定する必要があります。E メール設定節を参照してください。

- **FTP アップロード**

アラームがトリガーされた時点で画像をキャプチャし、その画像を FTP サーバにアップロードします。

- (3) 動体検知イベントが発生したときに外部アラームをトリガーしたいチャンネルを選択してください。

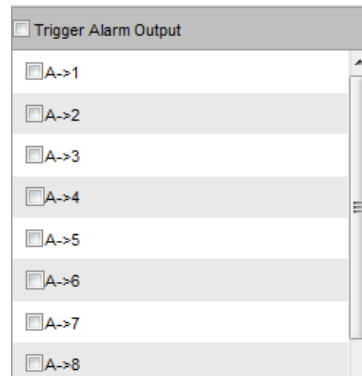


図 6.14 動体検知トリガーアラーム出力



イベント発生時に外部アラーム出力をトリガーする場合、アラーム出力設定インターフェイスから関連パラメータを設定する必要があります。

- 1) **[リモート設定]>[アラーム設定]>[アラーム出力]**をクリックし、アラーム出力設定インターフェイスに進みます。

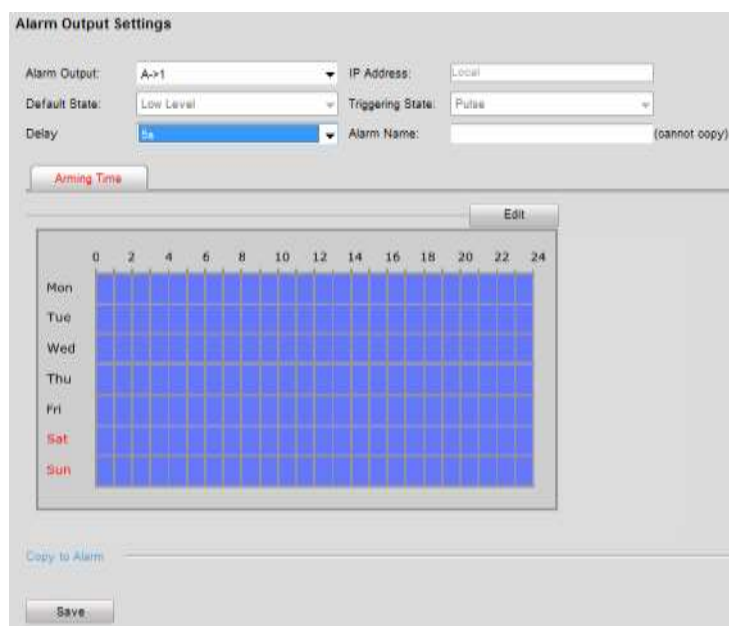


図 6.15 動体検知—アラーム出力設定

- 2) **[アラーム出力]**ドロップダウンリストからアラーム出力チャンネルを 1 つ選択します。
- 3) **[遅延時間]**は 5 秒、10 秒、30 秒、1 分、2 分、5 分、10 分または**マニュアル**に設定できます。**[遅延時間]**はアラームが発生してからアラーム出力が発報状態であり続ける時間を指します。



手動を選択した場合は、アラーム出力を手動で無効にする必要があります。

- 4) **[編集]**をクリックして**スケジュール時間編集**インターフェイスに進みます。時間スケジュールの設定は動体検知用の監視スケジュール設定と同様です。動体検知設定節のステップ 2 **動体検知の監視スケジュール設定**を参照してください。

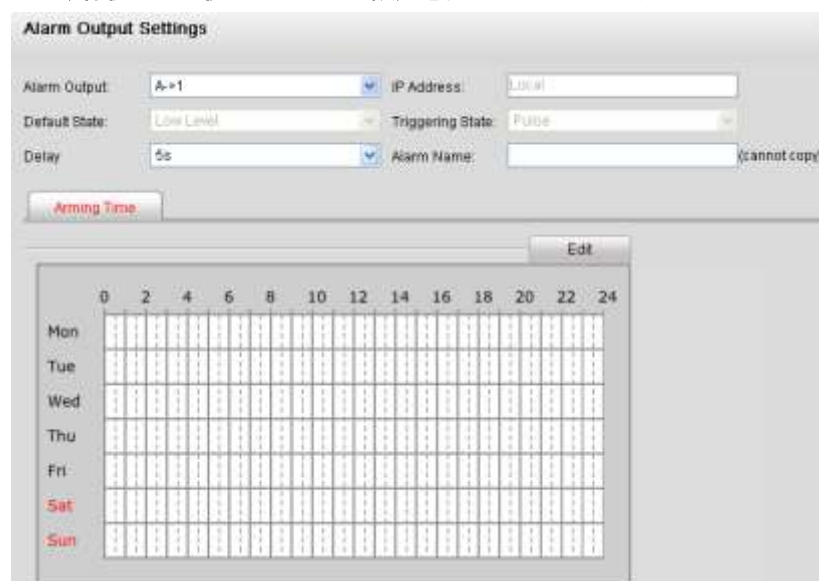


図 6.16 動体検知—アラーム出力設定

- 5) アラーム出力設定インターフェイスに戻り、**[保存]**をクリックして設定を保存します。

- (4) 動体検知イベントが発生したときに録画をトリガーしたいチャンネルを選択してください。

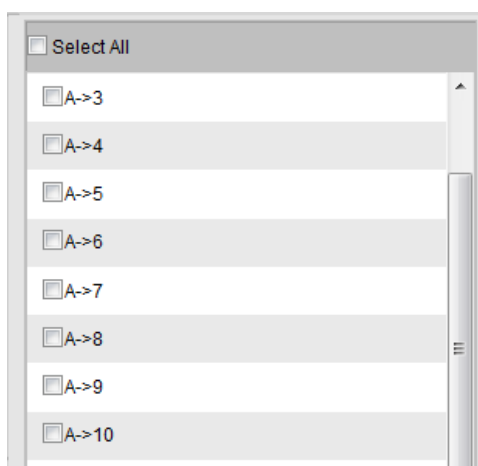


図 6.17 動体検知—アラームリンク録画

- (5) [OK]をクリックして動体検知のリンク方式の設定を保存してください。

6.3.4 外部アラーム入力の設定

手順:

1. [リモート設定]>[アラーム設定]>[アラーム入力]をクリックし、アラーム設定インターフェイスに進みます。
2. アラーム入力番号とアラーム種別を選択します。アラームタイプは NO (通常時オープン) と NC (通常時クローズ) が設定できます。

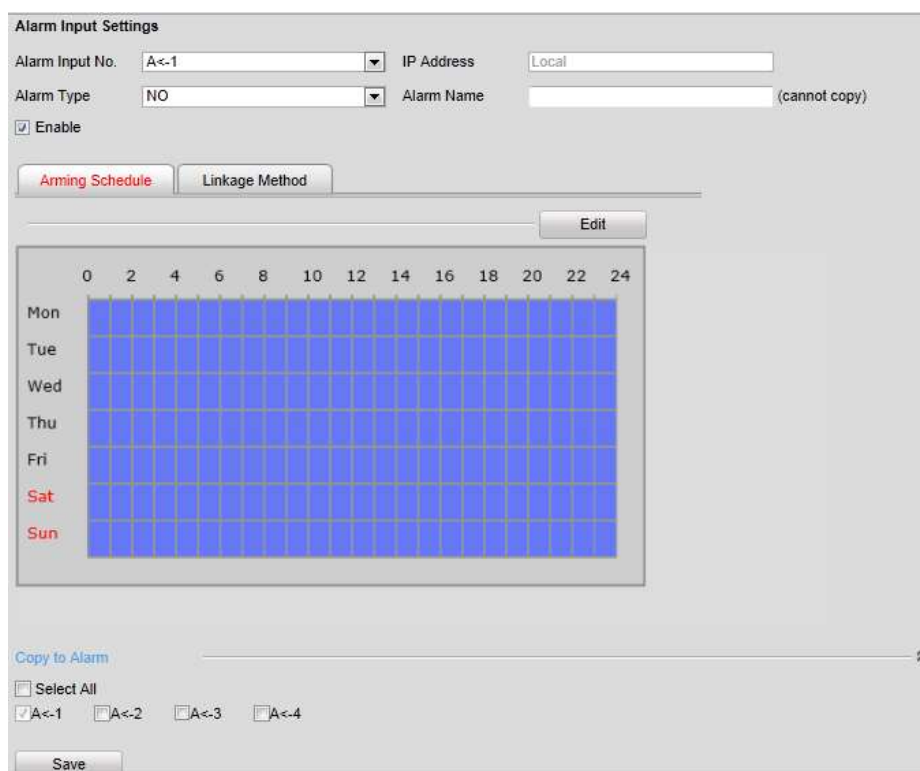


図 6.18 アラーム入力設定—監視時間

3. [有効化]のチェックボックスをチェックし、アラーム入力を有効化します。
4. アラーム入力の監視スケジュールを設定します。動体検知設定節のステップ 2 **動体検知の監視スケジュール設定**を参照してください。
5. [リンク方式]タブをクリックし、アラーム入力に対して起こすアクションを設定します。動体検知設定節のステップ 3 **動体検知に対するアラームアクションの設定**を参照してください。

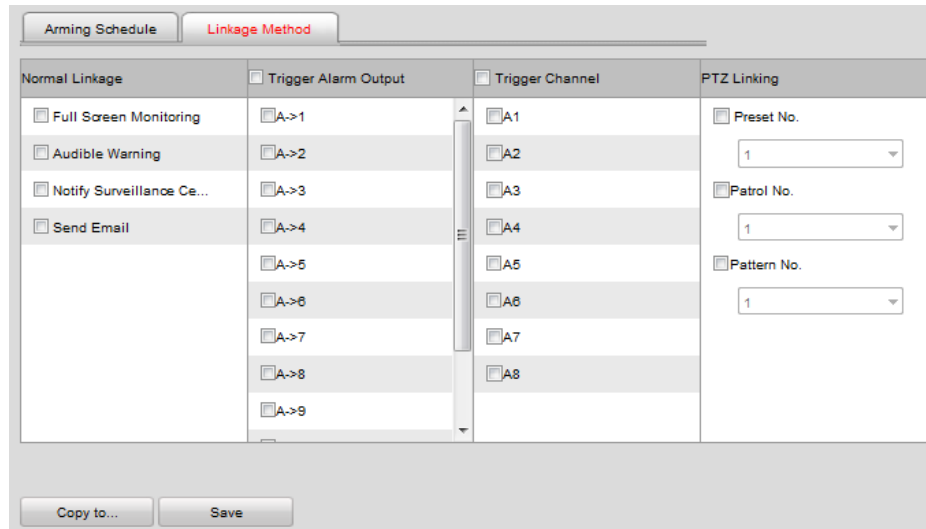


図 6.19 アラーム入力設定—リンク方式

6. お使いのカメラがパン/チルトユニットを備えている場合、アラーム入力に対して PTZ リンクを選択することもできます。
 - (1) PTZリンクチャンネルを選択してください。
 - (2) 対応するチェックボックスして、[プリセット呼び出し]、[パトロール呼び出し] または [パターン呼び出し] を有効化します。
7. 設定を他のアラーム入力にコピーすることができます。
8. [保存]をクリックして設定を保存します。

6.3.5 ビデオ損失アラームの検知

手順:

1. [リモート設定]>[カメラ設定]>[ビデオ損失]をクリックし、ビデオ損失アラーム設定インターフェイスに進みます。



図 6.20 ビデオ損失アラーム設定

2. カメラを選択してビデオ損失アラームを設定します。
3. **[ビデオ損失を有効化]** のチェックボックスをチェックします。
4. **[編集]** をクリックしてビデオ損失検出の監視スケジュールを編集します。監視スケジュールの設定は動体検知用の監視スケジュール設定と同様です。動体検知設定節 のステップ 2 **動体検知の監視スケジュール設定** を参照してください。
5. **[リンク方式]** タブをクリックし、ビデオ損失アラームに対して起こすアクションを設定します。動体検知設定節 のステップ 3 **動体検知に対するアラームアクションの設定** を参照してください。

6.3.6 ビデオ干渉アラームの設定

目的:

この機能を有効化すると、カメラの画像が何らかの干渉を受けた場合にアラームがトリガーされます。

手順:

1. **[リモート設定]** > **[カメラ設定]** > **[ビデオ干渉]** をクリックして干渉防止設定インターフェイスに進みます。
2. カメラを選択して干渉検知アラームを設定します。

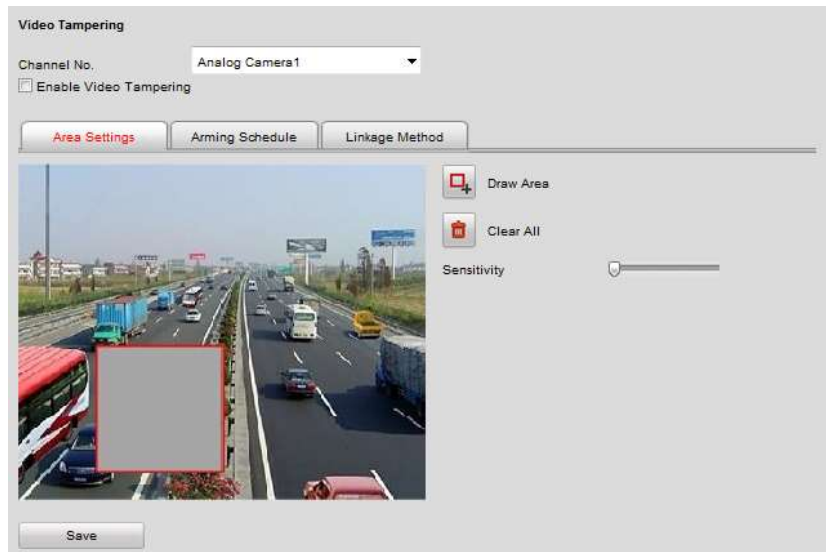


図 6.21 ビデオ干渉アラーム設定

3. **[ビデオ干渉有効化]**のチェックボックスをクリックします。
4. 干渉防止エリアを設定します。8.3.1 章 のステップ 1 動体検知エリアの設定を参照してください。
5. **[編集]**をクリックして干渉防止の監視スケジュールを編集します。監視スケジュールの設定は動体検知用の監視スケジュール設定と同様です。動体検知設定節 のステップ 2 動体検知の監視スケジュール設定を参照してください。
6. **[リンク方式]**タブをクリックし、干渉防止アラームに対して起こすアクションを設定します。動体検知設定節 のステップ 3 **動体検知に対するアラームアクションの設定**を参照してください。

6.3.7 異常への対応処理

異常の種別には HDD フル、HDD エラー、ネットワーク切断、IP アドレス競合、不正アクセス、ビデオ規格不一致、ビデオ信号異常、録画/キャプチャ異常およびビデオ解像度不一致があります。



[リモート設定] > [カメラ設定] > [ビデオ設定] で設定した解像度と実際のビデオ入力の解像度が一致しない場合、異常アラームがトリガーされます。ビデオ設定節 を参照してください。

手順:

1. **[リモート設定] > [アラーム設定] > [異常]**をクリックし、異常設定インターフェイスに進みます。
2. チェックボックスをチェックして異常アラームに対応するリンク方式を選択してください。動体検知設定節 のステップ 3 **動体検知に対するアラームアクションの設定**を参照してください。

Exception

Exception Type: HDD Full

Normal Linkage	Trigger Alarm Output
☐ Audible Warning	☐ A->1
☐ Notify Surveillance Center	☐ A->2
☐ Send Email	☐ A->3
	☐ A->4
	☐ A->5
	☐ A->6
	☐ A->7
	☐ A->8
	☐ A->9

Save

図 6.22 異常処理

3. **[保存]**をクリックして設定を保存します。

6.4 プライバシーマスクの設定

目的:

プライバシーマスクはチャンネルのビデオ上の特定の領域をカバーし、あなたのプライバシーがライブビューで表示されたり録画されたりすることを防ぎます。

手順:

1. **[設定]>[リモート設定]>[カメラ設定]>[プライバシーマスク]**をクリックし、プライバシーマスク設定インターフェイスに進みます。
2. プライバシーマスクを設定するカメラを選択します。
3. **[プライバシーマスクを有効化]** チェックボックスをチェックして機能を有効化します。



図 6.23 プライバシーマスク設定インターフェイス

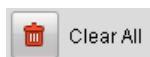
4.  Draw Area ボタンをクリックします。
5. マスク領域を、ライブビデオ映像上でのマウスのクリックアンドドラッグで指定してください。



注記

4 つまでのプライバシーマスク領域を設定することができます。

6. 領域指定が完了したら  Stop Drawing ボタンをクリックして指定を終了します。



Clear All

をクリックして設定した領域をセーブせずにすべて消去することができます。

7. [保存]をクリックして設定を保存します。

第7章 録画設定

始める前に

エンコーダーがHDDまたはネットワークディスクに接続され、HDDまたはネットワークディスクが初回利用のために初期化されていることを確認してください。

2つの録画/キャプチャ種別を設定できます：マニュアルとスケジュール。次節では、スケジュールされた録画/キャプチャの設定を紹介します。

7.1 休日設定

目的:

休日には個別の録画プランが必要になる場合があります。手順にしたがって、休日の録画を設定します。

手順:

1. **[リモート設定] > [カメラ設定] > [休日設定]** をクリックし、休日設定インターフェイスに進みます。

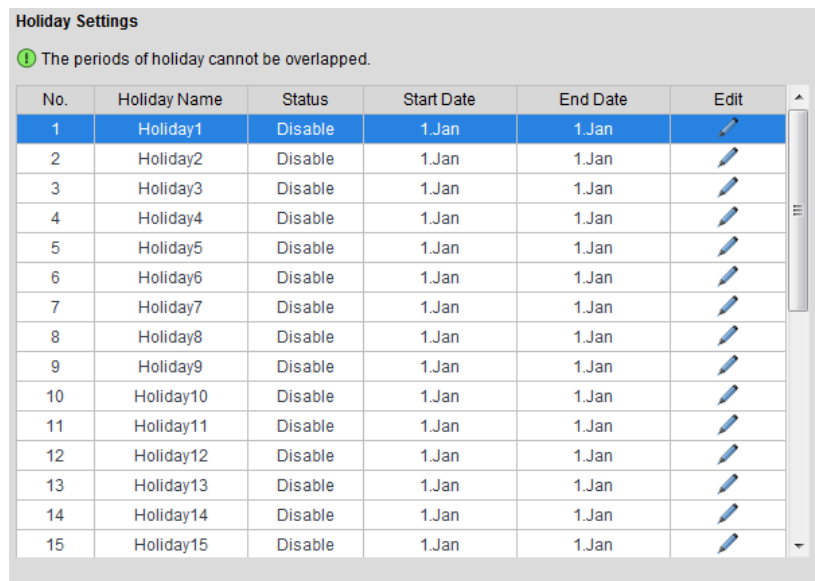


図 7.1 休日設定

2. リストから対象を選択して をクリックして休日を編集します。
 - (1) 休日の名前を編集します。
 - (2) [休日を有効化]のチェックボックスをチェックします。
 - (3) ドロップダウンリストで休日の種別を月ごと、週ごと、日ごとのいずれかから選択します。
 - (4) 開始日と終了日を設定します。
 - (5) **[OK]** をクリックして、設定を保存し、休日設定インターフェイスに戻ります。



The 'Edit Holiday' dialog box contains the following fields:

- Holiday Name: Holiday1
- Enable Holiday: ☒
- Type: By Month
- Start Date: Sep 1
- End Date: Dec 28
- Buttons: OK, Cancel

図 7.2 休日を編集

3. リストから完了した休日設定をチェックします。
4. 他の休日を設定するには同じ手順を繰り返します。最大 32 の休日を設定できます。

No.	Holiday Name	Status	Start Date	End Date	Edit
1	Holiday1	Enable	1.Sep	28.Dec	
2	Holiday2	Disable	1.Jan	1.Jan	
3	Holiday3	Disable	1.Jan	1.Jan	

図 7.3 休日のリスト

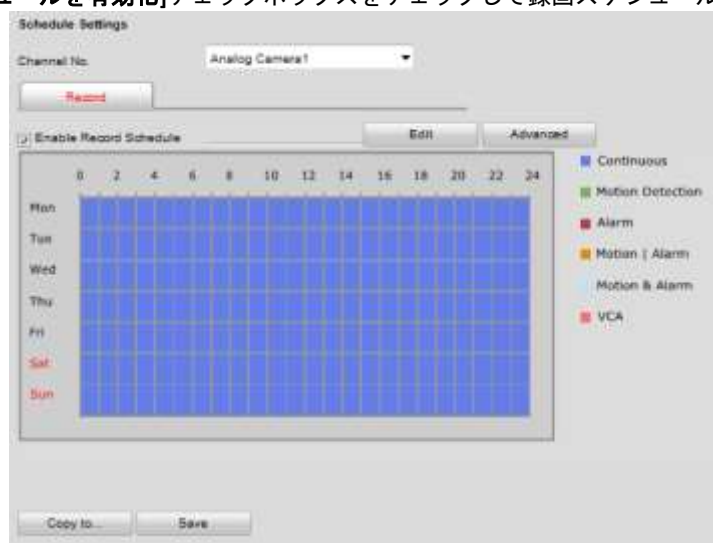


[休日設定]で休日のスケジュールを有効にしている場合、スケジュールドロップダウンリストで[休日]オプションが選択できます。

7.2 スケジュール録画の設定

手順:

1. [リモート設定]>[カメラ設定]>[スケジュール設定] をクリックし、録画スケジュール設定インターフェイスに進みます。
2. カメラを選択して録画/キャプチャスケジュールを設定します。
3. [録画]タブをクリックします。
4. [録画スケジュールを有効化]チェックボックスをチェックして録画スケジュールを有効化します。



The 'Schedule Settings' interface shows:

- Channel No.: Analog Camera1
- Buttons: Read, Edit, Advanced
- Enable Record Schedule: ☒
- Grid: A 7x24 grid for scheduling. Rows are Mon, Tue, Wed, Thu, Fri, Sat, Sun. Columns are 0, 2, 4, 6, 8, 10, 12, 14, 16, 18, 20, 22, 24. The grid is currently filled with blue.
- Legend:
 - Continuous (blue square)
 - Motion Detection (green square)
 - Alarm (red square)
 - Motion & Alarm (yellow square)
 - Motion & Alarm (light blue square)
 - VCA (pink square)
- Buttons: Copy to..., Save

図 7.4 スケジュール設定インターフェイス

5. **[編集]**をクリックしてスケジュール編集インターフェイスに進みます。
6. 週の中の一を選択してスケジュール録画/キャプチャを設定します。

Edit Schedule

Mon Tue Wed Thu Fri Sat Sun

☒ All Day Record Type: Continuous

☐ Custom

Period	Start Time	End Time	Record Type
1	00:00	24:00	Continuous
2	00:00	00:00	Continuous
3	00:00	00:00	Continuous
4	00:00	00:00	Continuous
5	00:00	00:00	Continuous
6	00:00	00:00	Continuous
7	00:00	00:00	Continuous
8	00:00	00:00	Continuous

Copy to Week ☐ Select All

☒ Mon ☐ Tue ☐ Wed ☐ Thu ☐ Fri ☐ Sat ☐ Sun

図 7.5 スケジュール編集

- 1) 終日または時間カスタマイズ録画/キャプチャの設定:
 - 終日録画を設定したい場合は、**[終日]** チェックボックスをチェックします。
 - 様々な時間帯で録画/キャプチャしたい場合は、**[カスタマイズ]**チェックボックスをチェックします。各時間帯の**[開始時刻]**と**[終了時刻]**を設定してください。



- 各時間帯の時間は重複できません。
 - 最大 8 つの時間帯を設定できます。
- 2) **[録画種別]** を選択します。録画種別は継続、動体検知、アラーム、動体&アラームおよび動体 | アラーム、または VCA に設定できます。
 - **連続**
[連続] を選択した場合、録画はスケジュールした時間に仕掛けて自動的に開始されます。
 - **動体検知トリガーによる録画**
[動体検知] を選択した場合、動体が検知されると、ビデオが録画されます。
 録画スケジュールの設定に加えて、動体検知領域を設定し、**動体検知設定インターフェイス**上の **[リンク方式]** で **[トリガーチャンネル]** チェックボックスをチェックする必要があります。
 動体検知設定節のステップ 1 **動体検知エリアの設定**を参照してください。
 - **アラームトリガーによる録画**
[アラーム] を選択した場合、何らかのアラームがトリガーされると、ビデオが録画されます。
 録画スケジュールの設定に加えて、**アラーム種別**を設定し、**アラーム入力設定インターフェイス**上の **[リンク方式]** で **[トリガーチャンネル]** チェックボックスをチェックする必要があります。

- **動体検知 & アラームによる録画**

[**動体検知 & アラーム**] を選択するとビデオは動体が検知され、かつ、アラームが同時にトリガーされた場合に録画されます。

録画スケジュールの設定に加えて、**動体検知とアラーム入力設定**インターフェイスで設定を行う必要があります。

- **動体検知 | アラームによる録画**

[**動体検知 | アラーム**] を選択するとビデオはアラームがトリガーされるか、または動体が検知された場合に録画されます。

録画/キャプチャスケジュールの設定に加えて、**動体検知とアラーム入力設定**インターフェイスで設定を行う必要があります。

- **VCA: ライン横断検知および侵入検知によって録画がトリガーされます。**

- 3) [**すべて選択**]のチェックボックスをチェックして[**コピー**]をクリックし、その日の設定を週全体にコピーします。任意の日付の前のチェックボックスをチェックして[**コピー**]をクリックすることもできます。

- 4) [**OK**]をクリックして設定を保存し、スケジュール**編集**インターフェイスを閉じます。

7. [**詳細**]をクリックして詳細な録画パラメータを設定します。

- **事前録画:**事前録画時間は、事前録画なし、5 秒、10 秒、15 秒、20 秒、25 秒、30 秒または無制限のいずれかに設定できます。

- **事後録画:**事後録画時間は、5 秒、10 秒、30 秒、1 分、2 分、5 分または 10 分のいずれかに設定できます。

- **音声録音:**音声録音を有効化または無効化します。

- **ストリーム種別:** アナログカメラ録画に対して、メインストリームかサブストリームを選択します。

- **有効期限:**有効期限は録画ファイルを HDD に保管しておく最大時間で、期限が来ると、ファイルが削除されます。有効期限を 0 に設定すると、ファイルが削除されないようにできます。ファイルの実際の保管時間は、HDD の容量で決定すべきです。

The screenshot shows a dialog box titled "Advanced" with the following settings:

Setting	Value
Pre-record	5s
Post-record	5s
Stream Type	Main Stream
Record Audio	Yes
Expired Time	0 Day

Buttons: OK, Cancel

図 7.6 スケジュール編集

8. 現在のカメラの表示設定を他のカメラにコピーしたい場合、[**カメラにコピー**]パネルを展開し、コピーするカメラ(複数可)を選択するか、[**すべて選択**]をクリックしてすべてのカメラを選択してください。

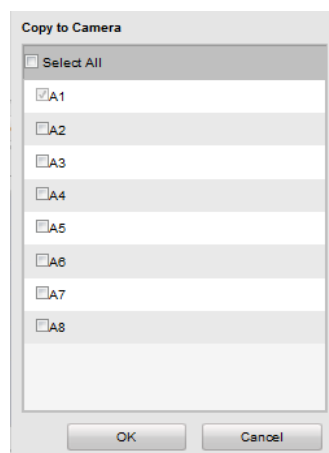


図 7.7 カメラへのコピー

-
9. **[保存]**をクリックして上の設定を確定します。

第8章 再生

目的:

録画されたビデオファイルは Web ブラウザを経由してリモートで再生することができます。

手順:

1. メニューバーの[再生]をクリックして再生インターフェイスに進みます。



図 8.1 再生ページ

2. デバイスリストから再生したいカメラをクリックします。
3. カレンダーから日付を選択して[検索]をクリックします。

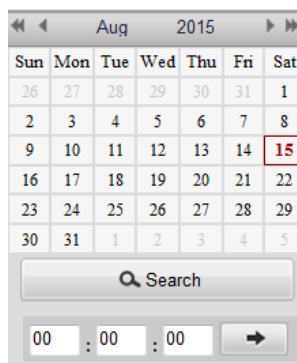


図 8.2 検索する日付の選択

4.  ボタンをクリックすると現在の日付に対して見つかったビデオファイルを再生します。



図 8.3 再生ページ

5. ツールバーのボタンで再生モードでの操作します。



図 8.4 再生ツールバー

表 8.1 ツールバーの説明

ボタン	操作	ボタン	操作
	ウィンドウ分割モード選択		逆再生
	再生/一時停止		再生停止
	スロー再生		早送り
	フレームごとの再生		全チャンネルの再生停止
	再生モードで画像キャプチャ		ビデオファイルのダウンロード
	ビデオファイルのクリッピングの開始/停止		音声 ON/OFF

6. プログレスバーをマウスでドラッグして正確な再生ポイントを特定することもできます。時間を入力して ボタンをクリックして再生ポイントを指定することもできます。

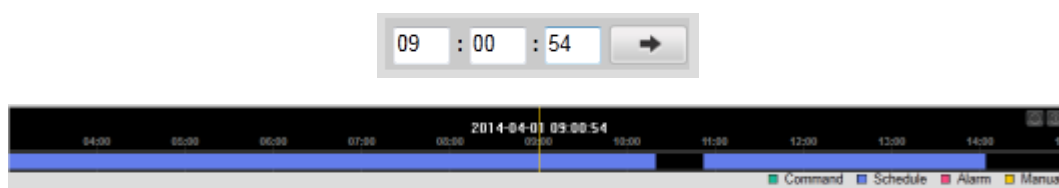


図 8.5 プログレスバー

プログレスバーのビデオの色は、それぞれのビデオタイプを示します。

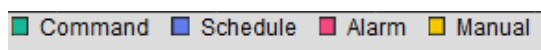


図 8.6 プログレスバー

第9章 ユーザアカウントの管理

[リモート設定]>[リモート設定]>[ユーザ管理] をクリックしてユーザ情報インターフェイスに進みます:

No.	User Name	Level
1	admin	Administrator

図 9.1 ユーザ情報インターフェイス

Admin ユーザは通常のユーザを作成することができます。最大 31 のユーザを設定できます。

9.1 ユーザの追加

手順:

1. [追加]をクリックし、ユーザ追加インターフェイスに進みます。
2. ユーザ名を編集します。
3. レベルをオペレータまたはユーザのいずれかから選択します。
4. パスワードを設定し、同じパスワードを確認します。



強力なパスワード推奨 – 製品のセキュリティ向上のために、ご自身で選択した強力なパスワード (最低 8 文字を使用し、大文字、小文字、数字および特殊記号を含む) を作成することを強く推奨します。定期的にパスワードを再設定することを推奨します。特に高度なセキュリティシステムでは、毎月または毎週パスワードを再設定すると、より安全に製品を保護できます。

Add user

User Name: Test01

Level: Operator

Password: [masked]

Password Strength: Strong

Confirm: [empty]

Basic Permission | Camera Configuration

Local Configuration

- ☐ Local: Upgrade/Format
- ☐ Local: Shutdown/Reboot
- ☐ Local: Parameters Settings
- ☒ Local: Log Search

Remote Configuration

- ☐ Remote: Parameters Settings
- ☒ Remote: Log Search / Interrogate Working Status
- ☐ Remote: Upgrade / Format
- ☒ Remote: Two-way Audio
- ☐ Remote: Shutdown / Reboot
- ☐ Remote: Notify Surveillance Center / Trigger Alarm Output
- ☐ Remote: Video Output Control
- ☐ Remote: Serial Port Control

図 9.2 ユーザの追加

ユーザレベルによって異なる権限が与えられます:

- **オペレータ**: オペレータユーザレベルはローカル設定でのローカルログ検索、リモート設定でのリモートログ検索および双方向音声、およびカメラ設定におけるすべての操作の権限を持っています。
 - **ユーザ**: ゲストユーザはローカル設定のローカルログ検索、リモート設定のリモートログ検索およびカメラ設定でのローカル/リモート再生についてのみの権限を持っています。
- 作成したユーザアカウントに対して、基本権限およびカメラ操作を含むユーザ権限を設定してください。
 - [OK] をクリックし、ユーザ追加を終了します。

The screenshot shows the 'User Information' window. At the top are three buttons: 'Add', 'Modify', and 'Delete'. Below them is a table with the following data:

No.	User Name	Level
1	admin	Administrator
2	Test01	Operator

図 9.3 ユーザ情報

9.2 ユーザの変更

手順:

- ユーザ情報インターフェイスで編集するユーザアカウントをリストから選択します。

The screenshot shows the 'User Information' window. The table from the previous figure is shown, but now it has three rows. The second row, 'test01' with level 'Operator', is highlighted in blue, indicating it is selected.

No.	User Name	Level
1	admin	Administrator
2	test01	Operator
3	test02	User

図 9.4 ユーザの選択

- [編集] をクリックし、編集インターフェイスに進みます。

The screenshot shows the 'Modify user' window. It contains the following fields and options:

- User Name:** Text field containing 'Test01'.
- Level:** Dropdown menu set to 'Operator'.
- Password:** Text field with masked characters '*****'.
- Password Strength:** A note indicating a valid password range is 8-16 characters, using a combination of numbers, lowercase, uppercase, and special characters.
- Confirm:** Text field with masked characters '*****'.
- Buttons:** 'Basic Permission' (highlighted in red) and 'Camera Configuration'.
- Local Configuration:** A list of checkboxes where 'Local: Log Search' is checked.
- Remote Configuration:** A list of checkboxes where 'Remote: Log Search / Interrogate Working Status' is checked.

図 9.5 ユーザの編集

3. ユーザ名、パスワードを変更し、ユーザ種別を選択します。強力なパスワードを使用することを強くお勧めします。
4. ユーザアカウントに対して、基本権限およびカメラ操作を含むユーザ権限を設定してください。
5. [OK] をクリックし、ユーザの編集を終了します。



admin ユーザを編集するには admin パスワードが必要です。

9.3 ユーザの削除

手順:

1. ユーザ情報インターフェイスで削除するユーザアカウントをリストから選択します。
2. [削除]をクリックすると、情報ボックスがポップアップ表示されます。

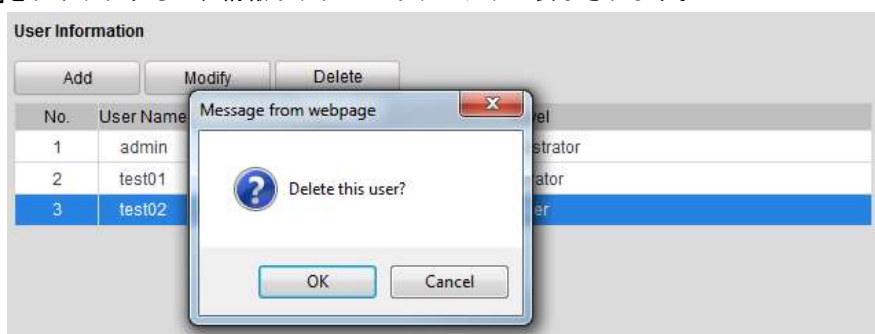


図 9.6 ユーザの削除

1. [OK] をクリックし、選択したユーザアカウントを削除します。

第10章 ログの検索およびメンテナンス

10.1 ログ検索

目的

デバイスの操作、アラーム、異常および情報はログファイルに保存でき、いつでも確認したりエクスポートしたりできます。

始める前に

ログ機能はエンコーダーがHDDまたはネットワークディスクに接続されている場合にのみ実行できます。初めて使用する際には、HDDまたはネットワークディスクが初期化されていることを確認してください。詳細については、ネットワークディスクの追加節を参照してください。

手順:

1. メニューバーの[ログ]をクリックしてログインターフェイスに進みます。
2. 大まかな種別、細かな種別、開始時刻と終了時刻など、検索事項を詳しく指定して、ログ検索条件を絞り込みます。
3. [検索]ボタンをクリックしてログファイルの検索を開始します。
4. 一致したログファイルが下のリストに表示されます。



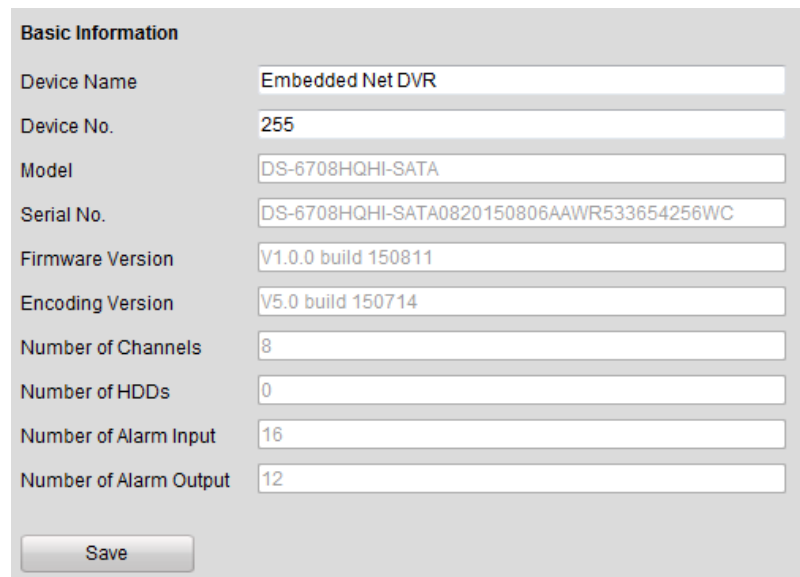
一回ごとに2000個までのログファイルが表示できます。

図 10.1 ログ検索インターフェイス

5.  ボタンをクリックして検索したログファイルをローカルディレクトリに保存することができます。

10.2 デバイス情報を表示

[リモート設定]>[デバイスパラメータ]>[デバイス情報]をクリックし、エンコーダーのデバイス情報インターフェイスに進みます:



Basic Information	
Device Name	Embedded Net DVR
Device No.	255
Model	DS-6708HQHI-SATA
Serial No.	DS-6708HQHI-SATA0820150806AAWR533654256WC
Firmware Version	V1.0.0 build 150811
Encoding Version	V5.0 build 150714
Number of Channels	8
Number of HDDs	0
Number of Alarm Input	16
Number of Alarm Output	12

Save

図 10.2 デバイス情報

デバイス名、デバイス番号の編集と、モデル、シリアル番号、ファームウェア/エンコーディングバージョン、チャンネルの数、HDD の数およびアラーム入力/出力の数を含むデバイス情報の表示が可能です。

10.3 メンテナンス

[リモート設定]>[メンテナンス]をクリックし、エンコーダーのメンテナンスインターフェイスに進みます:

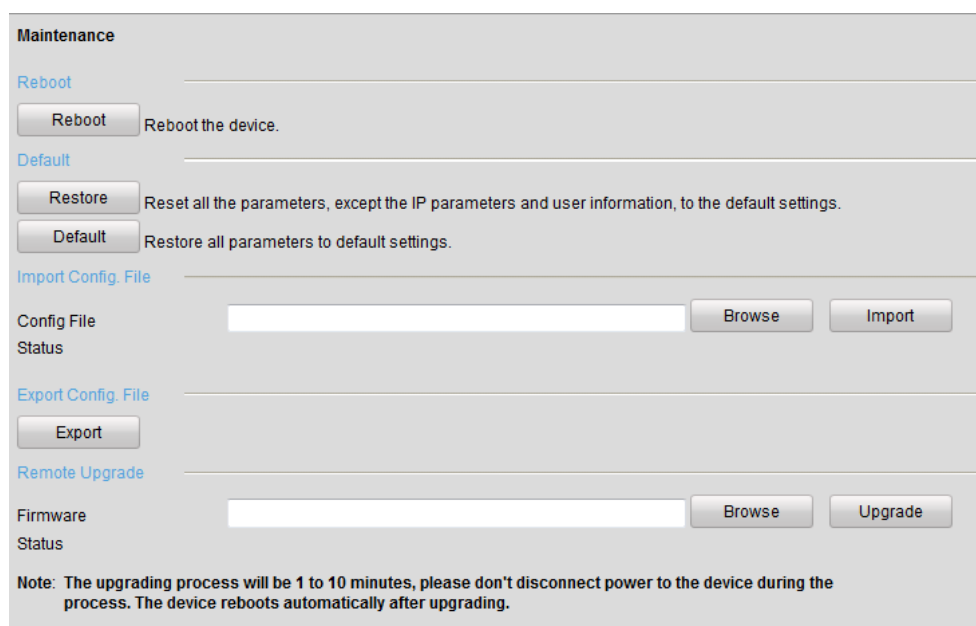


図 10.3 メンテナンスページ

10.3.1 デバイスの再起動

[メンテナンス] > [再起動] インターフェイスから[再起動]をクリックすると以下のメッセージボックスが開きます:

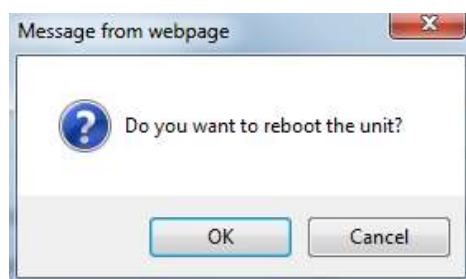


図 10.4 デバイスの再起動

[OK] をクリックしてデバイスを再起動するか、[キャンセル] をクリックして操作をキャンセルします。

10.3.2 デフォルト設定の復元

[メンテナンス]>[デフォルト] インターフェイスから[デフォルト復元]をクリックしてデバイスのパラメータを工場出荷状態に復元することができます。

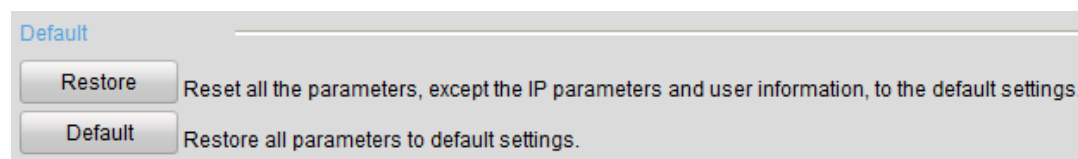


図 10.5 デフォルト設定の復元

- **[復元]** ボタンを選択すると、デバイスは IP アドレス、サブネットマスク、ポートを除くパラメータのデフォルト設定を復元します。
- **[デフォルト]** ボタンを選択すると、デバイスはすべてのパラメータのデフォルト設定を復元します。ポップアップメッセージボックスで**[OK]** をクリックするとデバイスの復元が行われ、設定を有効化するためにデバイスは再起動します。

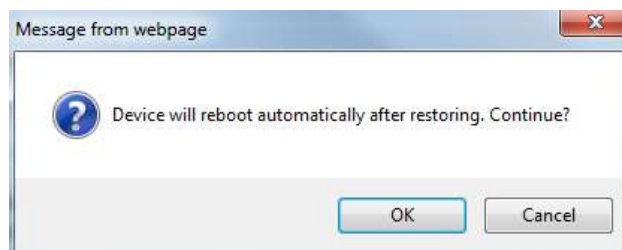


図 10.6 ポップアップメッセージボックス

10.3.3 設定ファイルのインポート/エクスポート

デバイスの設定ファイルはバックアップ用にローカルデバイスにエクスポートでき、あるデバイスの設定ファイルを他の複数のデバイスにインポートして同じパラメータを適用することができます。

- **[メンテナンス]>[設定ファイルのインポート]** インターフェイスから**[参照]**をクリックして選択したバックアップデバイスからのファイルを選択し、**[インポート]**ボタンをクリックして設定ファイルをインポートします。



設定ファイルのインポートが完了すると、デバイスは自動的にリブートします。

- **[メンテナンス]>[設定ファイルのエクスポート]** インターフェイスから**[エクスポート]**ボタンをクリックして設定ファイルを選択したローカルバックアップデバイスにエクスポートします。

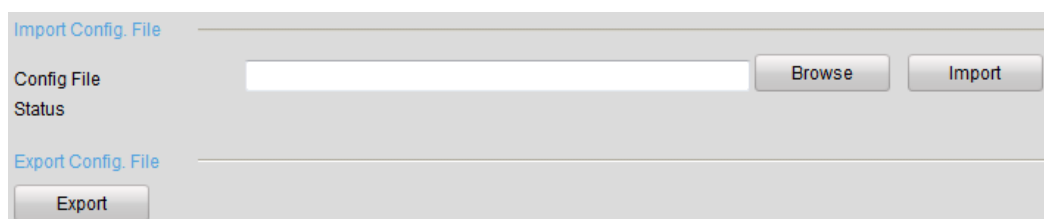


図 10.7 設定ファイルのインポート/エクスポート

10.3.4 システムのアップグレード

[メンテナンス] > [リモートアップグレード] インターフェイスから[参照]をクリックしてローカルアップデートファイルを選択し、[アップグレード]ボタンをクリックしてリモートアップグレードを開始します。

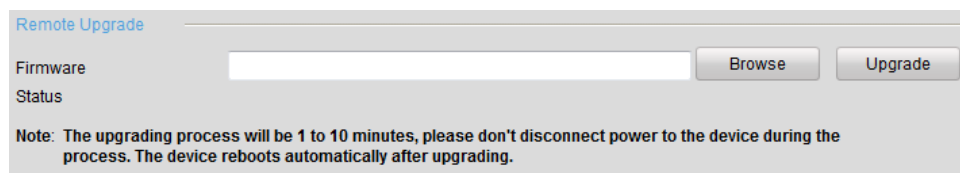
A screenshot of the 'Remote Upgrade' web interface. It features a title bar 'Remote Upgrade' in blue. Below it, there are labels 'Firmware' and 'Status' on the left. A text input field is positioned to the right of 'Firmware'. To the right of the input field are two buttons: 'Browse' and 'Upgrade'. At the bottom, a note states: 'Note: The upgrading process will be 1 to 10 minutes, please don't disconnect power to the device during the process. The device reboots automatically after upgrading.'

図 10.8 遠隔アップグレード

第11章 仕様

表 11.1 仕様

モデル		DS-6708HQHI-SATA	DS-6716HQHI-SATA
ビデオ/音声入力/音声出力	ビデオ入力	8 チャンネル BNC インターフェイス	16 チャンネル
	HDTVI ビデオ	720p/25、720p/30、720p/50、720p/60、1080p/25、1080p/30、CVBS	
	音声入力	4 チャンネル RCA（2.0 Vp-p、1 KΩ）	4 チャンネル
	音声出力	1 チャンネル、RCA（リニア、1 KΩ）	
ビデオ/音声エンコーディング	ビデオ圧縮	H.264	
	音声圧縮	G.711u	
	フレームレート	1/16 fps からリアルタイムフレームレートまで	
	ビデオビットレート	32 Kbps～10 Mbps	
	音声ビットレート	64 Kbps	
	ストリーム種別	ビデオ、ビデオと音声	
	メインストリーム	1080P/720P/WD1/4CIF/VGA/CIF	
	デュアルストリーム	サポート、サブストリーム:WD1/4CIF (12fps), CIF/QVGA/QCIF(リアルタイム)	
ストレージ	タイプ	SATA、NAS、ISCSI、IPSAN	
	数	2	
	容量	各ディスクは最大 6 TB まで	
外部インターフェイス	双方向音声入力	1 チャンネル、RCA (2.0 Vp-p、1 KΩ)（音声入力の第 1 チャンネル使用）	
	ネットワークインターフェイス	1, RJ45 10M/100M/1000M 自己適応型イーサネットインターフェイス	
	シリーズインターフェイス	1 RS-485: 半二重	
	アラーム入力	8 チャンネル入力、4 チャンネル出力	16 チャンネル入力、4 チャンネル出力
	アラーム出力		
一般	電源	DC12V	
	消費電力（HDD を除く）	≤ 30 W	≤ 45 W
	動作温度	-10° C～55° C (14° F～131° F)	
	動作湿度	10%～90%	
	筐体	380 mm 1U 筐体	
	寸法	380 mm × 290 mm × 48 mm (14.96" × 11.42" × 1.89")	
	重量 (HDD なし)	≤ 2 Kg (4.41 lb)	

第12章 FAQ

- **なぜエンコーダーに ping が届かないのですか？**
第 3 章を参照し、デバイスの IP をお使いの PC と同じセグメントのものに設定して、ケーブルとスイッチを確認してください。
- **トランスペアレントチャンネルが設定されているのにエンコーダーがデータを受信できないのはなぜですか？**
 1. まず RS-232 が投下チャンネルとして設定されていることを確認してください。
 2. エンコーダーの接続を確認します。
- **なぜソフトウェアエンコーダーを追加できないのですか？**
 1. エンコーダーの IP をチェックしてください。
 2. ケーブルが接続されていることを確認してください。
 3. エンコーダーのユーザ名とパスワードが正しいことを確認してください。
- **接続された PTZ カメラまたはスピードドームをエンコーダー経由で操作できないのはなぜですか？**
 1. デバイスと PTZ カメラまたはドームとの RS-485 接続を確認してください。
 2. デバイスの PTZ アドレス、プロトコル、ボーレートが接続されたカメラまたはスピードドームのものと同じように設定されていることを確認してください。
- **ビデオ映像を IE ブラウザで表示できないのはなぜですか？**
 1. ネットワーク接続を確認してください。
 2. エンコーダーのユーザ名とパスワードが正しく入力されていることを確認してください。
 3. エンコーダーのポートが正しく入力されていることを確認してください。